

令和 8 年度（令和 7 年度対象）

網走市教育委員会 事務点検・評価報告書

令和 8 年 9 月

網走市教育委員会

はじめに

本市では、平成20年5月に「網走市の教育目標」を策定し、また、この具現化のために「網走市学校教育計画」並びに「網走市社会教育長期計画」を策定して、次代を担う子どもたちの「生きる力」の育成や、市民の学習活動の支援と学習機会の提供に努めているところです。

こうした教育委員会の活動については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、各教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされています。

当委員会では、令和7年度の事務・事業について、学識経験者の知見を活用した点検・評価を実施し、本報告書のとおり取りまとめを行いました。

今回の点検・評価の結果を踏まえ、今後も本市の子どもたちの心豊かな成長と、市民の皆様の活気と潤いに満ちた生涯学習社会の創造をめざし、学校・家庭・地域はもとより、関係機関・関係団体等との連携を深めて、本市教育のより一層の充実・発展のために全力で取り組んでまいります。

令和8年9月

網走市教育委員会 教育長 木野村 寧

目 次

I	教育委員会事務点検・評価制度の概要	1
1	制度について	1
2	点検・評価の構成	1
II	「令和7年度教育行政推進方針」についての点検	2
1	総評	2
2	事業の点検	2
	[学校教育の推進]	
1	幼児期に身につけるべき基礎の育成	2
2	確かな学力の育成	3
3	豊かな人間性の育成	7
4	健やかな体の育成	9
5	支援が必要な子どもに対する教育体制の充実	12
6	学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進	16
7	学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現	19
	[社会教育の推進]	
1	生涯学習	25
2	社会教育	34
3	家庭教育	43
4	芸術文化	45
5	文化財	55
6	スポーツ	56
7	国際化対応	63
III	教育委員会の活動状況	65
1	教育長及び教育委員の就任状況	65
2	教育委員会議の開催状況	65
3	その他の主な活動	67
4	教育委員による自己点検	68
IV	外部評価報告書	72
1	学校教育	72
2	社会教育	77

I 教育委員会事務点検・評価制度の概要

1 制度について

中央教育審議会等における従来からの議論に加え、平成 18 年度に発足した「教育再生会議」の第一次報告においても、教育委員会の自己評価の必要性に関して言及されました。こうした状況を背景に、平成 19 年 6 月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条において、平成 20 年度から、全ての教育委員会において、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律(第 26 条)》抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の構成

令和 7 年度の教育委員会事務及び活動について、点検・評価を次のとおり実施しました。

(1) 目的

本市の教育行政の充実に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とします。

(2) 対象期間

令和 7 年度とします。

(3) 事務点検

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する教育委員会の権限に属する事務及び市長から補助執行を受け、教育委員会において実際に管理・執行している事務として、令和 7 年度教育行政推進方針に掲げられた施策に基づく事業について取組実績をまとめ、内部点検を行いました。

(4) 委員会活動の点検

教育委員により令和 7 年度の教育委員活動について自己点検を行いました。

(5) 学識経験を有する方の知見の活用(外部評価)

外部評価を実施するため、日本体育大学附属高等支援学校 教諭 平田和史氏と、元網走市社会教育委員 岡山一枝氏に外部評価を依頼しました。

資料として、「網走市教育行政執行について」「網走市教育行政推進方針」「令和 7 年度の主な活動内容など」を提供し、それを基に点検・評価をいただき、報告書を作成しました。

Ⅱ 「令和 7 年度教育行政推進方針」 についての点検

教育行政推進方針は、毎年、網走市議会第 1 回定例会において教育長が表明する翌年度の教育行政執行についての具体的な推進方針として、教育予算とともに教育委員会において審議・決定されるものです。

令和 7 年度事業として、その中に盛り込まれた施策・事業の内容と成果について内部点検を行い、今後の方向性について考察しました。

1 総評

教育行政推進方針に掲げてある事業については、概ね予定どおり実施されています。

こうした点検が毎年行われることにより、課題の特定化と明確化が進み、次年度の方針決定に生かせるものと考えます。

2 事業の点検

《点検結果》

学校教育の推進

1 幼児期に身につけるべき基礎の育成

項 目	幼保小連携事業（継続）
目 的	子どもが円滑に小学校生活を始められるよう、幼児と小学校児童との交流を充実させるとともに、教職員間で情報交流の促進を図る。
取組実績	・ 1 日体験入学および学校見学・保護者説明会の実施 ・ 児童・園児間の交流活動の実施（幼保小合同運動会、学校行事への招待・参加） ・ 新入学児童に関する幼稚園・保育園と小学校間の情報引継ぎの実施 ・ 幼保小の円滑な接続に向けた「スタートカリキュラム」の作成・活用 ・ 教育支援委員会の開催（令和 7 年 10 月 6 日、令和 7 年 12 月 16 日） ・ 教育相談会の実施（新就学児童相談申込者 32 名）
成 果	1 日体験入学や合同運動会等の交流活動を通じ、新入生の就学に対する期待感が高まるとともに、保護者の不安解消につながっている。また、事前の情報引継ぎや「スタートカリキュラム」の活用により、小 1 プロブレムを防ぎ、小学校生活への円滑な接続が図られている。
課 題	幼保小接続のさらなる充実に向けて、直接担当する教職員だけでなく、学校・園全体の教職員間における連携・情報共有の機会を広げるとともに、園児と児童が直接ふれあう交流機会の充実や、「架け橋プログラム」の具体的推進が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、小学校への円滑な接続に努めていく。

2 確かな学力の育成

項 目	G I G Aスクール構想第2期の取組 〔1人1台端末更新・ネットワーク環境改善・電子黒板増設〕（新規）
目 的	文部科学省が掲げるG I G Aスクール構想第2期の取り組みとして、1人1台端末の更新、ネットワーク推奨帯域確保、授業用機器の整備を行い、教育D Xの推進を図る。
取組実績	・1人1台端末更新 小学校 1,413 台、中学校 864 台 ・ネットワークアセスメント及び通信機器更新 ・電子黒板増設 小学校 9 台、中学校 5 台
成 果	ハードウェア及びネットワークの両面において、児童生徒が円滑にI C Tを活用できる、安定した学習環境を整備した。
課 題	整備したI C T環境の活用方法の充実化。
今後の方向性	引き続き、時代や学習状況に応じたI C T環境整備に努める。

項 目	学力向上対策事業（継続）
目 的	児童生徒の学力の実態を把握するとともに、効果的な授業や対応を推進し、学力の向上を図る。
取組実績	・比較、分析が可能な学力テストの実施：小学校 1,007 千円、中学校 896 千円
成 果	毎年度所要額を予算措置することにより、学力の継続的把握が可能となった。
課 題	継続して実施し、分析していく中で、効果的な指導法等の改善を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	小中学校教材教具費（2事業）（継続）																
目 的	小中学校の教材教具の整備・充実を図る。																
取組実績	<table border="0"> <tr> <td>・教師用指導書、教科書の購入</td><td>小学校 225 千円、中学校 10,887 千円、 刈苅学級 18 千円</td></tr> <tr> <td>・教材の購入</td><td>小学校 9,016 千円、中学校 7,639 千円</td></tr> <tr> <td>・通知表印刷費</td><td>小学校 184 千円、中学校 239 千円</td></tr> <tr> <td>・ふるさと教育にかかる流水館入場料</td><td>小学校 69 千円、中学校 0 千円</td></tr> <tr> <td>・地域体験活動費</td><td>小学校 267 千円、中学校 337 千円</td></tr> <tr> <td>・知能検査実施</td><td>小学校 107 千円、中学校 0 千円</td></tr> <tr> <td>・教職員被服貸与</td><td>小学校 37 千円、中学校 120 千円</td></tr> <tr> <td>・卒業証書印刷費</td><td>小学校 127 千円、中学校 132 千円</td></tr> </table>	・教師用指導書、教科書の購入	小学校 225 千円、中学校 10,887 千円、 刈苅学級 18 千円	・教材の購入	小学校 9,016 千円、中学校 7,639 千円	・通知表印刷費	小学校 184 千円、中学校 239 千円	・ふるさと教育にかかる流水館入場料	小学校 69 千円、中学校 0 千円	・地域体験活動費	小学校 267 千円、中学校 337 千円	・知能検査実施	小学校 107 千円、中学校 0 千円	・教職員被服貸与	小学校 37 千円、中学校 120 千円	・卒業証書印刷費	小学校 127 千円、中学校 132 千円
・教師用指導書、教科書の購入	小学校 225 千円、中学校 10,887 千円、 刈苅学級 18 千円																
・教材の購入	小学校 9,016 千円、中学校 7,639 千円																
・通知表印刷費	小学校 184 千円、中学校 239 千円																
・ふるさと教育にかかる流水館入場料	小学校 69 千円、中学校 0 千円																
・地域体験活動費	小学校 267 千円、中学校 337 千円																
・知能検査実施	小学校 107 千円、中学校 0 千円																
・教職員被服貸与	小学校 37 千円、中学校 120 千円																
・卒業証書印刷費	小学校 127 千円、中学校 132 千円																
成 果	毎年度所要額を予算措置することにより、教材教具の整備・充実が図られている。																
課 題	継続して充実を図る必要がある。																
今後の方向性	今後も事業を継続していく。																

項 目	小中学校デジタル教材教具費（２事業）（継続）
目 的	小中学校のデジタル教材教具の整備・充実を図る。
取組実績	・デジタルドリル、指導者用及び学習者用デジタル教科書の整備 小学校 3,806 千円、中学校 1,973 千円 ・デジタルドリルライセンス、Web アプリケーションライセンスの購入 小学校 2,378 千円、中学校 2,208 千円
成 果	毎年度所要額を予算措置することにより、教材教具の整備・充実が図られている。
課 題	継続して充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	国際理解・外国語教育の充実〔外国語指導助手配置〕（継続）
目 的	小学校及び中学校における英語授業において、担当教諭をサポートする外国青年「外国語指導助手（ＡＬＴ）」を配置し、生きた英語に触れることにより、児童生徒の英語の表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。
取組実績	・外国語指導助手（ＡＬＴ）の配置（２名）による市内全小中学校への訪問、指導 ・学校行事、クラブ活動への協力 ・英語能力コンテスト等への協力 ・地域における国際交流への協力
成 果	ＡＬＴの生きた英語に触れることにより、英語の正しい発音や表現力、コミュニケーション能力の育成が図られた。
課 題	学校との連携を強め、各校の教育課程に応じた、より効果的なＡＬＴの関わり方の検討が必要。令和８年３月末での１名の中途退職により、現在１名体制となっている。
今後の方向性	ＡＬＴ２名体制を維持し小中学生の英語コミュニケーション能力の充実を図る。

項 目	総合学校力向上実践事業（新規）
目 的	「網走市学校教育推進プラン」および「Well-being の実現に向けた網走市小中学校新教育ビジョン」に基づき、「教員の資質向上」や「効率的な学校運営」、「子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実践」を重点項目とし、教員と児童生徒が共に学び成長する学校づくりを通じて市全体の学校力を向上させ、「令和の日本型学校教育」の実現を図る。
取組実績	【教員の資質向上】 ・第1回授業力向上研修会「国語」（令和7年5月21日） ・二中校区研修会（令和7年8月28日） ・四中校区研修会（令和7年8月29日） ・白鳥台小公開研究会（令和7年10月10日） ・第2回授業力向上研修会「算数」（令和7年10月24日） ・第3回授業力向上研修会「算数・数学」（令和8年2月17日） 【効率的な学校運営】 ・I C T活用研修会 2回 ・教職員向けセキュリティ研修会 1回 ・全校が参加する共同学校事務室の設置（設置校：網走小） ・共同学校事務室運営協議会 2回 ・共同学校事務室会議 10回 ・共同学校事務室の先進地視察（旭川市）
成 果	網走市 Well-being 推進アドバイザーの指導・助言により授業改善が図られた。また、全校参加の共同学校事務室の運営により、学校運営の効率化が図られた。
課 題	中学校区を核とした学校間の連携を一層深める必要がある。また、I C Tを「使う」から「活用する」授業実践を推進する必要がある。共同学校事務室においては、活動計画の明確化やデータ収集等に伴う作業負担の平準化、室員の意見を十分に反映できる運営体制の構築が課題である。
今後の方向性	引き続き、教員の資質向上を図るとともに、効率的な学校運営の推進に努めていく。

項 目	学習支援員配置事業（継続）
目 的	市費負担による算数・数学における学習支援員を配置し、T T（チーム・ティーチング）指導・習熟度別少人数指導や補充学習に取り組むことで、学習内容の基本・基礎を定着させる。
取組実績	・退職した教員や、免許所有者を会計年度任用職員として任用し、小学校4校、中学校1校に配置し習熟度別授業や少人数指導、補充学習に取り組んだ。
成 果	きめ細かな指導が可能となり、基本・基礎の定着が進むとともに、補充学習を通じて児童生徒の学習意欲の向上が図られた。
課 題	道教委加配による少人数指導と連携した、より効果的な活用法の検討が必要。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の学力向上に努める。

項 目	あばしり寺子屋開催事業（継続）
目 的	小学1～6年生を対象に学生ボランティアによる学習サポートを行い、参加児童にとって必要な学力を見極め、「わかる喜びやできる喜び」を体得させることを通して、学習習慣の定着や学力の向上など、「確かな学力」を身につけさせる。
取組実績	・東京農業大学生物産業学部 学生ボランティア 延べ人数：164名 ・実施回数10回（5/24、6/21、7/26、8/23、9/6、9/20、10/4、10/18、11/15、12/6） ・延べ参加人数：1年生13名、2年生37名、3年生25名、4年生49名、5年生15名、6年生30名 計169名
成 果	学生ボランティアのサポートにより、参加児童の学習意欲向上が図られた。
課 題	参加児童を増加させる仕組みや効果的な周知方法の検討が必要。
今後の方向性	引き続き、児童の学力・学習意欲の向上に努める。

3 豊かな人間性の育成

項 目	小中学校図書館図書整備事業（2 事業）（拡充）
目 的	小中学校の学校図書館用図書の計画的な整備・更新を図る。
取組実績	・文部科学省より示されている学校規模（学級数）に応じた学校図書整備基準冊数及び鮮度を考慮し、各学校へ予算を配当：小学校 3,219 千円、中学校 2,146 千円 ・学校図書館で利用する消耗品の購入費を各校に配当：小学校 381 千円、中学校 254 千円
成 果	毎年度所要額を予算措置することにより、図書の整備・充実が図られた。 小学校 2,498 冊購入、中学校 1,456 冊購入
課 題	文部科学省が定める「学校図書館図書標準冊数」の基準達成を優先した結果、鮮度が低下した古書が増加し、授業に必要な最新資料の整備や現場の実態に即した予算配当といった「質」の確保が追いついていない。
今後の方向性	令和 8 年度より網走市の「標準冊数」の考えを改めた結果、令和 8 年度調査（令和 7 年度末時点）では、小学校全体で 145.62%、中学校全体で 130.67%の達成率となった。目標冊数を大きく上回ったことを受け、予算配当基準を見直し、今後は「保有数」を維持しながら「図書の鮮度」も重視した整備を行う。

項 目	学校図書館司書の配置（継続）
目 的	学校図書館司書を配置し、図書館整備・活用を推進することにより、児童生徒の読書への関心を高め、学力の向上を図る。
取組実績	・司書資格を有する者を配置することにより、学校図書館資料の管理や整理、児童生徒に対する読み聞かせ、学校図書館に関する教育指導への支援を行う。 ・平成 29 年度より 4 名体制として、司書教諭配置校にも巡回を行い、読書への関心を高める取組を推進している。
成 果	図書の整理・分類整備が進み、児童生徒の読書への関心が高められた。
課 題	引き続き、児童生徒の読書への関心を向上させるための取組が必要である。
今後の方向性	学校図書館司書を 1 名増員し、学校図書館の更なる充実を図る。

項 目	網走市子ども会議の実施（継続）
目 的	いじめの根絶や命の大切さなどについての意見交換を通して、各学校における望ましい人間関係づくりの意識の醸成と、いじめ問題への取組の一層の充実を図る。
取組実績	・令和 8 年 1 月 31 日に開催。児童会や生徒会等がいじめ問題の解決や人間関係づくりに取り組んだ内容の交流、また「誰もが笑顔で安心して過ごせる学校をつくるために」についての意見交流を行った。 ・参加児童生徒数：小学校 20 名 中学校 12 名
成 果	他校の取組を知ること、自校での課題解決活動のきっかけづくりとなった。
課 題	テーマを限定せず、今日的な教育的課題や子どもたちの関心があることなどについて、会議内容の検討が必要である。
今後の方向性	児童生徒の意識啓発や自発的な課題解決に向けた機会として、今後は、網走の未来について子どもたちの関心があることなどについて考える「学び EXP0 in 網走」での発表へ発展させる。

項 目	学校教育指導奨励諸補助負担金〔合同観劇事業補助〕（継続）
目 的	児童に優れた芸術文化を鑑賞させることにより、豊かな表現力と情操教育の充実を図る。
取組実績	・ 網走市合同観劇実行委員会が実施する網走市内小学校合同観劇事業に対し、児童の鑑賞料金を補助 ・ 事業内容 劇団風の子北海道による「めっきらもつきらどおんどん」の鑑賞（8会場） ・ 参加児童数 1,165名
成 果	優れた芸術に触れることで児童の感性を高め、豊かな情操や多様な価値観を養うことができ、様々な表現を学ばせることで、子どもの表現活動に生かすことができた。
課 題	豊かな表現力と情操教育の充実を図るため、年齢に応じた鑑賞方法の検討が必要である。
今後の方向性	引き続き実施する。

項 目	いじめ対策事業（拡充）
目 的	いじめの実態を把握し、未然防止、早期発見・対応に向けた指導・助言を行うとともに、児童生徒に対する「いじめはどんな理由があっても許されない」ことへの意識醸成を図る。
取組実績	・ 包括的性教育の実施（7回） ・ いじめに関する調査の実施（年2回） ・ いじめ防止啓発資料の作成 ・ 市内小中学校のいじめ対策への支援、相談カードの配布（小学1・3・5年生、中学1・3年生） ・ いじめ問題調査委員会の運営 ・ いじめ相談報告アプリの活用（対象：小学4年生以上の児童生徒）
成 果	いじめ問題の取組についての普及・啓発が図られた。
課 題	全ての児童生徒が「いじめはどんな理由があっても許されない」ことへの理解を深めるとともに、保護者を含めた全市のいじめ撲滅の意識醸成が必要である。
今後の方向性	いじめの防止に向け、「見逃しゼロ」を基本として、未然防止、早期発見・対応の強化を図っていく。

4 健やかな体の育成

項 目	学校プール管理事業（継続）
目 的	夏季における学校教育の一環としての水泳授業実施のため、学校プールの安全な管理運営及び施設整備を行う。
取組実績	・ 小学校 9 校のうち 5 校で実施(中央小、西小、南小、東小、白鳥台小) ※網走小、潮見小、呼人小は市民健康プール、西が丘小は西地域プールで授業実施 ・ プール管理人を各校 1 名配置し、日常点検（水質、水温、室温等）を実施 (委託先：シルバー人材センター) ・ 定期検査の実施(学校薬剤師と市職員で残留塩素、大腸菌群、管理日誌記録等を点検) ・ プール使用時期前後に濾過機の保守点検や屋根シートの付け外しを実施
成 果	安全なプール授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課 題	施設の老朽化が進んでおり、施設維持のためのメンテナンスが課題である。
今後の方向性	引き続き学校プールの適切な管理運営に努める。

項 目	学校スケートリンク設置補助事業（継続）
目 的	冬季における学校教育の一環として行われるスケート授業実施のため、学校スケートリンク等設置運営に要する経費の一部補助を実施校に対して行い、児童の心身の健全な発達を図る。
取組実績	・ スケートリンク等設置に対する補助 2 校(白鳥台小、西が丘小)
成 果	スケート授業等の実施により、児童の心身の健全な発達が図られた。
課 題	スケートリンク等の造成は P T A の方々による協力が必要となり、リンクの造成作業などに大きな負担がかかっている。
今後の方向性	事業を継続し、冬季スポーツによる児童の心身の健全な発達を図っていく。

項 目	学校給食施設の改修〔調理場空調ほか施設改修〕（拡充）								
目 的	安全・安心でおいしい学校給食を提供するため、給食室設備の改修や維持管理を行う。								
取組実績	・ 設備・備品の主な改修及び修繕の実施状況 <table border="0"> <tr> <td>桂ヶ岡地区共同調理場空調設備改修工事</td><td>(4, 167 千円)</td></tr> <tr> <td>潮見地区共同調理場屋上防水改修工事</td><td>(5, 125 千円)</td></tr> <tr> <td>呼人小中学校給食用小荷物専用昇降機改修工事</td><td>(3, 245 千円)</td></tr> <tr> <td>西小学校給食用小荷物専用昇降機改修工事</td><td>(2, 695 千円) 等</td></tr> </table>	桂ヶ岡地区共同調理場空調設備改修工事	(4, 167 千円)	潮見地区共同調理場屋上防水改修工事	(5, 125 千円)	呼人小中学校給食用小荷物専用昇降機改修工事	(3, 245 千円)	西小学校給食用小荷物専用昇降機改修工事	(2, 695 千円) 等
桂ヶ岡地区共同調理場空調設備改修工事	(4, 167 千円)								
潮見地区共同調理場屋上防水改修工事	(5, 125 千円)								
呼人小中学校給食用小荷物専用昇降機改修工事	(3, 245 千円)								
西小学校給食用小荷物専用昇降機改修工事	(2, 695 千円) 等								
成 果	衛生管理に努め、健やかな身体の成長を図るための、安全・安心でおいしい学校給食を児童生徒に提供することができた。 学校給食従事職員の職場環境の改善を図ることができた。								
課 題	改修財源の確保が必要である。								
今後の方向性	学校給食施設の老朽化が進んでおり、学校施設等改修計画を考慮しながら、学校再編の検討状況を踏まえ、学校給食施設の今後のあり方の検討を進める。								

項 目	学校給食運営の充実〔備品の整備、衛生管理〕（拡充）
目 的	安全で安心な学校給食の実施により、児童生徒の身体に必要な栄養を摂取し、あわせて食事のマナー等を身につけさせる。また、給食室設備の維持管理、給食調理員の衛生教育等を行う。
取組実績	・ 設備・備品の主な修繕及び更新の実施状況 向陽ヶ丘地区共同調理場冷凍庫購入 （660 千円） 第五中学校給食運搬車更新購入 （1,245 千円）等 ・ 学校給食従事職員研修会（年 1 回） ・ 学校給食衛生管理基準に基づく定期検査（年 3 回/市教委実施） ・ 学校給食施設立入調査（年 1 回/保健所実施） ・ 給食調理員等の検便検査、食材の細菌検査の定期的な実施 ・ 児童生徒の食物アレルギーに対し、家庭との連携を図り対応
成 果	衛生管理に努め、健やかな身体の成長を図るため、安全・安心でおいしく質の高い学校給食を児童生徒に提供することができた。
課 題	児童生徒に安全・安心でおいしい学校給食を提供していくための調理体制の整備が必要である。
今後の方向性	給食を安定的に提供するための調理体制の整備に努める。また、学校給食従事職員の衛生教育等を図り、児童生徒に安全・安心でおいしい学校給食を提供していく。

項 目	学校給食を活用した食育の推進（継続）
目 的	栄養教諭の任用により食育の推進を図るとともに、未配置校においても食に関する指導を実施する。また、地場産物を活用した給食を実施するなど、地元産業や地場産物への理解を深める。
取組実績	・ 栄養教諭等による食に関する指導（栄養教諭等 6 名） ・ 「網走ふるさと給食」において、地元産食材を使用した給食を実施 （たらの竜田揚げ、はたとと行者菜のオイスター炒め、しじみ汁、しじみ入り和風スパゲッティ、長芋と牛肉のコロッケ） ・ 地元産業や地場産物への理解を深めるため、希望校においては生産者講話を実施 ・ 学校給食用パンへ網走産小麦を 100%使用 ・ 鯨食文化の理解を深めるために、鯨肉を使用した給食の実施 ・ 野菜摂取量の増加、野菜に親しむことを目的とした「野菜の日給食」の実施
成 果	食育の推進や地元食材を活用することにより、児童生徒の地場産物や食文化に対する理解が深められた。
課 題	生産者や流通などの関係機関との連携体制の強化を図る必要がある。
今後の方向性	各学校の栄養教諭と連携を図りながら、全校的に食育の推進を図る。また、今後も地元食材を活用するとともに、生産者の協力を得ながら「網走ふるさと給食」を継続して実施していく。

項 目	児童生徒の健康管理事業（継続）
目 的	児童生徒が健康な体で学校生活を送れるよう各種保健事業を行う。
取組実績	・新入学の児童を対象とした就学時健康診断の実施 ・在籍する児童生徒を対象とした各種検診の実施 （尿検査、結核検診、脊柱側湾症検査、眼科検診、心臓検診、耳鼻咽喉科検診）
成 果	健康診断を実施することにより、児童生徒の健康管理が図られた。
課 題	医師会との連携、各種検診における学校との日程調整等が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の健康管理の推進に努める。

項 目	子ども体力づくりサポート事業（継続）
目 的	市内の児童生徒が体力づくりの支援を受ける環境を整備し、運動習慣の定着や体力づくりの向上に資する。
取組実績	・講師（学校法人日本体育大学）による体育科の示範授業を実施 （令和7年12月11日、中央小） ・教員を対象とした研修会を実施（令和7年12月11日、参加教員：15名）
成 果	専門的な指導のもと、児童生徒の体力向上に関する興味関心の増大や、教員の指導方法の向上につなげることができた。
課 題	教員の指導方法や児童の体力向上に対する意欲付けなどを市内全校に広げていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の体力向上のための指導改善を図る。

項 目	タグラグビー大会の開催（継続）
目 的	タグラグビー大会を開催することにより、児童の健全な発達・成長を促し、体力向上を図る。
取組実績	・参加児童 小学4年～6年 8チーム 57名 ・開催日時 令和7年10月5日（日）9時40分～12時00分 ・会 場 網走スポーツ・トレーニングフィールド
成 果	タグラグビーの取組を通して、身体能力の向上、健康的な体づくりに寄与した。
課 題	市内全ての小学校が参加できるよう呼びかけていく必要がある。
今後の方向性	網走市ラグビーフットボール協会の協力をいただき、各学校におけるタグラグビーの取組を積極的に行うこととし、今後も継続して大会を開催する。

項 目	中学校体育文化振興事業補助（拡充）
目 的	生徒が対外試合やコンクール等に参加する場合に、経費の一部を補助することにより、保護者の経済的負担を軽減し、体育・文化活動の振興を図ることを目的とする。
取組実績	・補助実績：16,429千円
成 果	学校外における体育・文化活動を通じ、生徒の健全な心身の育成を図り、体育・文化活動の振興に寄与した。
課 題	生徒の体育・文化活動の振興のため、補助対象範囲や補助要件の検討が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

5 支援が必要な子どもに対する教育体制の充実

項 目	特別支援教育の推進〔特別支援教育費、施設・備品等整備〕（継続）
目 的	特別支援学級、通級指導教室の学級設備・用具・教材の充実を図るとともに、学級運営上の必要経費について学校配当を行う。
取組実績	・特別支援教育費学校配当：小学校 9 校 2,180 千円、中学校 6 校 1,035 千円 ・既存特別支援学級教材備品の整備： 小学校 7 校(24 学級) 1,020 千円（網走小、中央小、西小、呼人小、潮見小、白鳥台小、西が丘小） 中学校 5 校(12 学級) 644 千円（第一中、第二中、呼人中、第四中、第五中） ※整備未実施の小学校 2 校、中学校 1 校は、令和 7 年度の要望なし ・南小通級指導教室（新規開設）教材備品の整備：199 千円 ・通級指導教室への教材費等配当：中央小 385 千円、潮見小 190 千円、南小 110 千円、第二中 90 千円
成 果	学級設備・用具・教材の整備充実を進めることにより、円滑な学級運営が図られた。
課 題	増加傾向にある支援の必要な児童生徒に対する個別ニーズへ対応する必要がある。
今後の方向性	増加・多様化する支援の必要な児童生徒に対し、個々の特性に応じた設備や教材の更なる整備・充実を図る。

項 目	特別支援教育研修事業（継続）
目 的	障がいのある児童生徒に対しては、様々な工夫と配慮の下での指導が展開されている中で、より障がいに対する幅広い理解と専門性の一層の向上が図られるよう研修の場や機会を設ける。
取組実績	・特別支援研修会の開催（令和 7 年 9 月 8 日/エコーセンター）参加者 17 名 講師：網走市子ども支援アドバイザー 竹村さつき（網走市立中央小学校教諭） 研修内容：教育相談面接、学びの場の判断など
成 果	担当教員のより専門的な知識の習得と資質の向上が図られた。
課 題	養護学校等の関係機関と更に連携を深める必要がある。
今後の方向性	具体的な指導法を盛り込んだ、より実践的な研修の充実を図る。

項 目	特別支援教育支援員の配置（継続）
目 的	小中学校の通常学級、特別支援学級における教育上特別な支援を必要とする児童生徒に対し、個々の適正に応じた柔軟な教育の推進を図るため、指導補助及び運営支援を行う支援員を配置する。
取組実績	・支援員配置数：小学校 25 名（網走小 4 名、中央小 3 名、西小 2 名、呼人小 1 名、南小 5 名、潮見小 7 名、東小 1 名、西が丘小 2 名） 中学校 6 名（第一中 1 名、第二中 2 名、呼人中 1 名、第三中 2 名） ・支援内容：特別な支援を要する児童生徒に対する学習支援、健康・安全確保 基本的生活習慣確立のための日常生活上の支援、学習活動・教室間移動における支援
成 果	支援員を配置することにより、特別支援学級等においてより円滑な学級運営が図られた。
課 題	特別支援教育対象児童生徒の増加に伴い、より充実した支援を行うため、学校の実情に応じた支援員配置が必要である。
今後の方向性	特別な支援を要する児童生徒が増加傾向にあるため、支援員の配置による学校教育全体の支援を継続する。

項 目	教育相談体制の充実〔教育児童相談室運営事業〕（継続）
目 的	児童生徒の教育及び家庭児童福祉上の問題に対して、児童生徒及び保護者からの相談に応じ、関係機関との連絡調整を行いながら指導・助言を行う相談室を設置して問題解決を図る。
取組実績	・相談室の開設（相談員は学校教育部から1名、健康福祉部から1名を配置） ・相談延べ件数：109件
成 果	児童生徒及び保護者の不安軽減が図られた。
課 題	学校をはじめ関係機関と連携を図る上で、日常的な情報交換や対応協議の場を充実し、更に連携を深める必要がある。保護者と情報を共有し、歩調を合わせた児童生徒への指導のあり方が課題である。
今後の方向性	今後も、不登校やいじめ・家庭問題等に対し、学校・家庭・関係機関が連携して適切に対応できるよう相談室の充実を図る。

項 目	スクールカウンセラーの配置（拡充）
目 的	児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有するスクールカウンセラーを配置し、学校における教育相談体制の充実を図る。
取組実績	・市内小中学校の児童生徒のカウンセリング、教職員・保護者に対する専門的助言や情報提供を実施 ・令和7年度から、小学校を担当する網走市専任のカウンセラーを配置 ・小学校 SC 相談人数：年間延べ232人／1,820時間、配置人数：1名（常勤） ・中学校 SC 相談人数：年間延べ230人／1,443時間、配置人数：4名（時間勤務）
成 果	スクールカウンセラーの適切な指導・助言によりの確な課題整理が可能となり、児童生徒の不登校や問題行動等の解決に向け、生徒指導の充実が図られた。
課 題	カウンセリングが必要な児童生徒など、学校や教育相談室との更なる連携が必要である。
今後の方向性	引き続き、児童生徒へのカウンセリング、教職員・保護者への助言等を行い、学校における教育相談体制の充実を図る。

項 目	スクールソーシャルワーカーの配置（新規）
目 的	児童生徒の課題を組織横断的に解決するためのコーディネーターとしてスクールソーシャルワーカーを配置し、多様かつ組織的な支援方法を用いた課題解決を図る。
取組実績	・社会福祉等の専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカーを配置し、学校及び関係機関との連携をより密にし、総合的な支援体制を強化 ・相談人数：年間延べ176人、1,365時間 ・配置人数：1名
成 果	スクールソーシャルワーカーによる組織横断的な支援によりの確な課題整理が可能となり、児童生徒を取り巻く環境に着目し、問題解決に向けた対応が図られた。
課 題	学校や関係機関との更なる連携が必要である。
今後の方向性	引き続き、関係機関と連携し、組織横断的に課題解決できるような支援体制を維持するとともに、多様かつ組織的な支援方法の充実を図る。

項 目	不登校児童生徒への支援の充実〔教育支援センター運営事業〕（継続）
目 的	不登校児童生徒に対しての適切な教育相談、学習指導などの指導援助を行い集団生活への適応や学校生活への復帰を促すため、教育支援センターを設置する。
取組実績	・指導員の配置(2名) ・教育支援センター「クリオネ学級」の開設・運営 (毎週月～金曜日 午前9時～午後3時) ・通級児童生徒数：令和7年度19名(小学生7名、中学生12名) ※R8.3.31時点
成 果	教育相談や学習指導を通し、不登校児童生徒の集団生活への適応の改善が図られた。また、施設移転により教室の拡充等学習環境が向上した。
課 題	児童生徒個々の性格・実情を把握し、それぞれに見合った指導援助が必要であるが、児童生徒の安定した通級を図ることに難しさがある。
今後の方向性	指導援助体制の充実を図るとともに、一人でも多くの児童生徒に見合った援助ができるように努める。

項 目	学級集団状況把握事業〔Q-Uテストを活用した学級集団状況把握〕（拡充）
目 的	児童生徒に学校生活意欲と学級満足度の検査を実施し、いじめや不登校などの問題行動の早期発見、予防と対策につなげる。
取組実績	・Q-Uテスト(楽しい学校生活を送るためのアンケート式心理テスト)の実施 ・小学校8校(網走小、中央小、西小、呼人小、南小、潮見小、東小、西が丘小) ・中学校6校(第一中、第二中、呼人中、第三中、第四中、第五中)
成 果	Q-Uテストの結果を学級経営に反映させることで、児童生徒の悩みや問題行動の早期解決が図られた。
課 題	問題行動の早期発見や予防につなげるため、実施校や検査実施回数の拡大などの検討が必要である。
今後の方向性	令和8年度は対人関係能力の尺度が加わった hyper-Q Uテストを活用し、児童生徒の問題行動の早期発見及び予防と対策を図ります。

項 目	学校教育専門相談員配置事業（継続）
目 的	学校教育専門相談員（会計年度任用職員）を配置し、学校との連携をより密にすることで、不登校やいじめ等の諸問題への指導助言、保護者対応など総合的な支援体制の強化を図り、各校統一的な支援体制を確立する。
取組実績	・いじめ、不登校児童生徒及び保護者からの相談対応、教育相談室との連携、情報共有 ・要保護児童対策地域協議会、個別ケア会議を通じた学校への指導助言
成 果	関係機関との情報共有がスムーズになり、具体的対応に繋がった。
課 題	共有された情報を個別のケースに応じた具体的な支援策に繋げるための判断基準やプロセスを明確にする必要がある。
今後の方向性	引き続き、学校や関係機関と連携し、不登校やいじめ等の諸問題への指導助言を行う。

項 目	発達障がい児童・生徒相談支援事業（継続）
目 的	発達障がい等のある児童・生徒の一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難改善のため、児童・生徒発達指導アドバイザーを小中学校に派遣し、専門的知見による指導・助言のもと、よりよい支援体制の向上を目指す。
取組実績	・派遣依頼先：丸山芳孝氏（学校法人帯広葵学園） ・派遣先：小学校（網走小、中央小、南小、潮見小、白鳥台小、西が丘小） 中学校（第三中、第四中）
成 果	児童・生徒発達指導アドバイザーによる発達支援に関する指導助言により、支援体制の向上が図られた。
課 題	増加傾向にある支援の必要な児童生徒に対する個別ニーズへ対応する必要がある。
今後の方向性	引き続き、児童・生徒発達指導アドバイザーによる児童生徒へのカウンセリングや、教職員及び保護者等への助言・援助などを行う。

6 学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進

項 目	学校給食費無償化事業（継続）
目 的	児童生徒の保護者の経済的負担を軽減し、子育て支援の充実を図るとともに、安全・安心でおいしい学校給食を安定的に提供する。
取組実績	・児童生徒数に応じた年間食数分の金額を各調理場へ補助金として交付（補助金交付金額） - 桂ヶ岡地区共同調理場 29,271 千円 - 向陽ヶ丘地区共同調理場 19,792 千円 - 潮見地区共同調理場 27,116 千円 - 南地区共同調理場 45,930 千円 - 西部地区共同調理場 6,449 千円 - 西小学校給食調理場 6,043 千円 ・事業財源として国の交付金を充当 - 令和7年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 18,352 千円
成 果	安全・安心でおいしい学校給食を無償で児童生徒に提供し、保護者の経済的負担を軽減した。
課 題	児童生徒に安全・安心でおいしい学校給食を提供していくための調理体制を維持していく必要がある。
今後の方向性	引き続き、保護者の経済的負担の軽減を図るため、給食費の無償化を実施していく。

項 目	学校開放運営事業（継続）
目 的	学校教育に支障のない範囲で、小中学校の体育館を市民に開放し、スポーツ及び文化活動の場として活用する。
取組実績	・利用団体：27 団体 延べ利用回数：800 回 ・開放学校：小学校 7 校（網走小、中央小、南小、西小、潮見小、東小、呼人小） 中学校 4 校（第一中、第二中、第三中、第五中）
成 果	年間を通じて市民の利用があり、スポーツ活動の場となっている。
課 題	利用者が安全に活動できる施設運営と利便性向上策を検討する必要がある。
今後の方向性	スポーツ及び文化活動の振興を図るため、事業を継続していく。

項 目	コミュニティ・スクール推進事業（継続）
目 的	学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民が参画できるコミュニティ・スクール（CS）の活動を推進する。
取組実績	- 運営協議会開催数 - 西部地区学校運営協議会（西が丘小、第五中） 3 回 - 東部三校学校運営協議会（東小、白鳥台小、第四中） 3 回 - 呼人地区学校運営協議会（呼人小、呼人中） 3 回 - 中央、西地区学校運営協議会（西小、中央小、第二中） 3 回 - 網走小学校学校運営協議会 3 回 - 南小学校学校運営協議会 3 回 - 潮見小学校学校運営協議会 5 回 - 第一中学校学校運営協議会 3 回 - 第三中学校学校運営協議会 3 回 - 先進地視察 比布町立比布中央学校（潮見小学校学校運営協議会）
成 果	学校運営協議会を通じて、地域の方が幅広く関わる場が確保された。
課 題	各校において、地域との連携を深めるための取組内容の充実が必要である。
今後の方向性	引き続き、学校運営協議会の取組の充実を図る。

項 目	奨学資金貸付事業（継続）
目 的	経済的理由によって就学困難な学生に奨学金及び入学準備金を貸付け、社会の有用な人材を育成することを目的とする。
取組実績	- 令和 7 年度資金貸付状況： 2 件 384,000 円 - 大学・専門課程（月額 18 千円×1 名） 1 件 216,000 円 - 高校・高等課程（月額 9 千円×1 名 入学準備金 60 千円×1 名） 1 件 168,000 円 - 償還金収納状況 1,968,600 円 - 現年度分 1,212,400 円（収納率 96.2%） - 滞納繰越分 756,200 円（収納率 10.0%）
成 果	経済的な理由で就学が困難な学生が希望校に進学することができた。
課 題	貸付償還金の滞納者が増加し、制度の運用に影響が及ばないよう、新規滞納者を増やさない等の収納率向上に向けた取組が必要である。 経済的理由により就学の機会を失うことがないよう、制度の周知を図る必要がある。
今後の方向性	制度の周知を積極的に行い、利用の拡大を図っていく。

項 目	大学給付型奨学金事業（継続）
目 的	向上心があり、学業成績が優秀な学生で、経済的理由により就学困難と認められる者に対し、返済が不要な入学準備金及び奨学金を支給し、社会の有用な人材を育成する。
取組実績	- サン育英奨学金 9 件 12,250 千円 ①令和 3 年度決定者（奨学金 150 千円× 8 ヶ月×1 名、100 千円× 8 ヶ月×1 名＝2,000 千円） ②令和 4 年度決定者（奨学金 150 千円×12 ヶ月×2 名＝3,600 千円） ③令和 5 年度決定者（奨学金 150 千円×12 ヶ月×1 名、100 千円×12 ヶ月×1 名＝3,000 千円） ④令和 6 年度決定者（奨学金 150 千円×12 ヶ月×1 名、100 千円×12 ヶ月×1 名＝3,000 千円） ⑤令和 7 年度決定者（入学準備金 250 千円×1 名、奨学金 100 千円× 4 ヶ月×1 名＝650 千円）
成 果	経済的な理由で就学が困難な学生が希望校に進学することができた。
課 題	企業からの寄附を原資としているため、財源が限られている。
今後の方向性	引き続き、社会に有用な人材を育成します。

項 目	学びEXPOの開催（継続）
目 的	学校教職員・保護者・地域住民の三者が、多様な学びの実現に向けた取組や成果を共有することにより、子どもたちの望ましい成長と地域の未来について考える場とする。
取組実績	・令和7年12月13日開催（会場：エコーセンター） ・ワークショップ：7ブース ・研修会参加報告：視察報告（視察先：富山県富山市立芝園小学校） ・講演：『夢に向かってチャレンジしようぜ！』 株式会社 福田農場 F4 代表取締役 福田 稔 氏
成 果	教職員、保護者、教育関係者等に教育に関する情報を提供することができた。
課 題	学校教育への理解を深めるため、地域・保護者の参加者を増やす取組が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を図るとともに、学校に関わる全ての人が多様な幸せや生きがいを感じられる、学校教育環境向上の実現を目指す。

項 目	小中学校就学奨励事業（継続） ※教材費等の保護者負担の一部軽減を含む。
目 的	教育の機会均等の精神に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒もしくは入学予定者の保護者に対し就学に要する経費を援助することにより、全ての児童生徒に対する義務教育の円滑な実施に資すること。
取組実績	・学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、通学費、新入学児童生徒学用品費、体育実技用具費、生徒会費、PTA会費、クラブ活動費、オンライン学習通信費の援助 ・要保護者に対する修学旅行費、オンライン学習通信費の援助 ・学校保健安全法第24条及び同法施行令第8条に定める疾病の治療に要した費用の援助 ・令和7年度： 準要保護扶助児童生徒数 267名 特別支援学級在籍扶助児童生徒数 64名
成 果	経済的支援を要する保護者の負担軽減が図られた。
課 題	保護者負担軽減のため、認定事務の効率化を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

7 学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現

項 目	教員住宅管理事業（継続）
目 的	教職員住宅の改修を行い、教職員の住環境を維持する。
取組実績	・主な改修 中学校管理職住宅改修工事 （2,662 千円）
成 果	緊急度が高いものから優先的に改修を行い、住環境が整備された。
課 題	教員住宅の老朽化が進んでいるため、長寿命化改修など適切な整備の検討が必要である。
今後の方向性	学校施設等改修計画を考慮しながら、学校再編の検討状況を踏まえ、教員住宅の今後のあり方の検討を進める。

項 目	教員住宅解体事業（新規）
目 的	老朽化した教職員住宅の解体を行なう。
取組実績	・つくしヶ丘 3 丁目教職員住宅解体工事 （18,766 千円）
成 果	地域の住環境が整備された。
課 題	その他の教員住宅でも老朽化の進んだ物件があるため、適切な維持管理や解体の検討が必要である。
今後の方向性	学校施設等改修計画を考慮しながら、学校再編の検討状況を踏まえ、教員住宅の今後のあり方の検討を進める。

項 目	学校管理運営費〔教育環境の充実、学校配当予算〕（継続）
目 的	小中学校の適切な管理運営により、児童生徒や教職員が安全・安心に過ごすことができる環境を維持する。
取組実績	・主な備品購入、業務委託の実施状況 【小学校備品】：東小 芝刈機(259 千円)、呼人小中学校 自動床洗淨機（605 千円） 【中学校備品】：第二中 キャビネット(821 千円)、第二中学校 芝刈機（259 千円）、第五中 除雪機(1,189 千円)、呼人小中学校 金庫（570 千円） 【業務委託】：小中学校機械警備、自家用電気工作物保守、消防用設備保守点検、廃棄物収集運搬処理、ストーブ分解掃除、貯水槽清掃、トイレ清掃 ・学校配当予算の執行状況 【小学校】需用費 14,171 千円、役務費 951 千円、備品購入費 660 千円 合計 15,782 千円 【中学校】需用費 11,746 千円、役務費 1,008 千円、備品購入費 414 千円 合計 13,168 千円
成 果	学校からの要望等により備品購入及び業務委託を行い、施設の維持が図られた。
課 題	学校備品の老朽化が進んでおり、計画的な整備の検討が必要である。
今後の方向性	引き続き予算規模内で備品購入及び業務委託を実施し、児童生徒・教職員の安全・安心な環境づくりを進めていく。

項 目	学校改修事業（継続）
目 的	学校施設の長寿命化を図り、児童生徒の良好な学習環境を維持する。
取組実績	・潮見小 屋上防水改修工事 (26,005 千円) ・西が丘小 屋体破風改修工事 (3,256 千円) ・呼人小中 加圧給水ポンプ改修工事 (2,427 千円) ・第二中 駐車場舗装改修工事 (7,458 千円) ・第二中 地下灯油タンク改修工事 (5,929 千円) 【公立学校施設災害復旧事業】 ・中央小 屋体屋根修繕工事 (5,478 千円)
成 果	改修により、施設の長寿命化が図られた。
課 題	改修財源の確保が必要である。
今後の方向性	学校施設の老朽化が進んでおり、学校施設等改修計画を考慮しながら、学校再編の検討状況を踏まえ、学校施設の今後のあり方の検討を進める。

項 目	学校施設の営繕及び修繕（継続）
目 的	小中学校の校舎やグラウンド等の営繕及び修繕を行い、児童生徒や教職員が安全・安心に過ごすことができる環境を維持する。
取組実績	・主な営繕及び修繕の実施状況 【小学校】 - 中央小 屋体床ウレタン補修 (726 千円) - 東小 屋体床ウレタン補修 (682 千円) - 南小 グラウンド改修 (605 千円) - 東小 プール上屋シート取替工事 (1,095 千円) 【中学校】 - 第一中 グラウンド改修 (1,427 千円) - 第二中 屋体床ウレタン補修 (1,210 千円) - 第三中 第二体育館非常口ドア取替工事 (1,113 千円)
成 果	学校からの要望や耐用年数等から、必要な営繕及び修繕を行い、安全・安心な環境が維持された。
課 題	営繕及び修繕財源の確保
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒及び教職員にとって安全・安心な環境づくりを進めていく。

項 目	中学校冷房設備整備事業（新規）
目 的	夏季の猛暑によって教室が高温になり、子どもたちの生命や健康への影響が懸念されることから、前年度整備済みの呼人中学校を除く中学校 5 校の普通教室、特別支援教室、職員室、校長室へエアコンを整備することにより学習環境及び職場環境の向上を図る。
取組実績	・実施設計費 : 6,050 千円 ・工事費 : 168,256 千円 ・エアコン設置台数 : 73 台
成 果	令和 7 年度中に設置を完了し、令和 8 年度からの学習環境及び職場環境の向上が図られた。
課 題	暑さ指数や室温、天候等を考慮して、温度設定など適切な教育環境となるよう運用していく必要がある。
今後の方向性	各小中学校の特別教室に冷房設備を設置し、安全・安心な教育環境の維持に努める。

項 目	スクールバス運行事業（継続）
目 的	網走市郊外の東部・南部地区及び西部地区の児童生徒の安全な通学を確保するため、スクールバスを運行し、通学時の利便性向上を図る。
取組実績	・路線数：登校 11 路線、下校 9 路線 ・小中学校の広範な教育活動をサポートするため、各校に借上げバス経費の予算を配当（小学校 1,400 千円、中学校 1,086 千円） ・学校の校外学習及び社会科見学等のため、スクールバスの多目的運行を実施 ・休日及び夏・冬休み中の部活動におけるスクールバス運行を実施
成 果	遠距離通学児童生徒の安全で安定的な通学が確保された。
課 題	遠距離通学児童生徒のさらなる利便性の向上を図るため、乗車時間、乗降場所、バスの空席状況などの確に把握する必要がある。
今後の方向性	今後も継続して、安全・安心な運行体制の維持に努めていく。

項 目	スクールバスボックス整備事業（新規）
目 的	スクールバスボックスを設置することにより、網走市郊外の東部・南部地区及び西部地区の児童生徒の安全な通学を確保する。
取組実績	・設置箇所（2 箇所） 浦士別地区：「第 23 営農集団前」「浦士別十字路」 1,628 千円
成 果	悪天候時における待機環境が改善され、遠距離通学児童生徒の安全かつ安定的な通学の確保につながった。
課 題	遠距離通学児童生徒の保護者からの要望をもとに設置することには地域の気象条件や利用実態を見極めながら優先度判断する必要がある。
今後の方向性	本事業は令和 7 年度で完了。

項 目	子ども安全対策事業〔安全対策、通学路の整備〕（継続）
目 的	児童生徒が安全に通学できる通学路の安全対策を図る。
取組実績	・通学路交通安全等プログラムによる関係機関との合同点検を元に、関係機関と連携し危険箇所について協議・対策を実施 ・新たな危険箇所について学校や関係機関からの聴取
成 果	登下校時における児童生徒の安全を確保した。
課 題	用地確保などの物理的制約等により、ハード整備による早期の対策完了が困難な未対策箇所が存在する。
今後の方向性	引き続き通学路の危険箇所の具体的な情報収集を実施し、関係機関との合同点検を継続するとともに、ハード整備が困難な未対策箇所については、看板設置や注意喚起などのソフト対策への切り替えを検討し、より効果的で迅速な安全対策に努めていく。

項 目	部活動指導員の配置（継続）
目 的	各競技団体などを通じて推薦のあった地域の外部人材を、市が部活動指導員として任用し中学校に配置することにより、部活動指導の充実と教職員の業務負担軽減を図る。
取組実績	・令和7年度：1名配置（第一中 バレーボール指導員1名） 実技指導、大会等の引率などの指導業務を実施 指導回数（1名合計延べ数）年間203回、451時間
成 果	生徒の競技力向上による部活動の充実が図られたとともに教職員負担が軽減された。
課 題	競技団体の活動状況にもよるが、継続して関わることのできる人材の確保が必要。
今後の方向性	各学校の要望に基づき、引き続き指導員の確保・配置に努める。

項 目	部活動あり方検討事業（継続）
目 的	少子化により、従来の活動の継続が困難となっている学校部活動のあり方を見直し、子どもたちが将来にわたり各種活動を継続できる環境づくりを目指す。
取組実績	・検討協議会の開催（10月、11月、12月） ・網走市立学校における部活動地域展開に関する方針策定
成 果	部活動地域展開に向けた網走市の方針を策定した。
課 題	運営団体の整備、認定地域クラブの確保及び支援など。
今後の方向性	本事業は今年度で完了しており、今後は部活動地域展開推進事業において、部活動の地域展開を推進する。

項 目	吹奏楽楽器整備事業（継続）
目 的	ふるさと寄附を活用し、小中学校の音楽教育を支援すべく吹奏楽における楽器を整備する。
取組実績	・市内中学校（第一中、第二中、第三中、第五中）から要望のあった楽器を整備
成 果	楽器整備により、各校の老朽化した楽器を更新でき、取り組める楽曲の幅が広がった。
課 題	楽器が高価であるため、整備できる規模が限られるとともに、楽器の維持管理の支援も必要である。
今後の方向性	今後も児童生徒の音楽教育の充実を図っていく。

項 目	学校教育研究実践校補助事業（継続）
目 的	教育課程、学習指導及び生徒指導等の当面する学校教育の課題について、実践的な研究を促進する。
取組実績	・市内小中学校のうち申請のあった学校に対し、教育研究経費を補助し、各校の公開研究会実施を支援した。
成 果	実践指定校では、当面する課題の実践研究が行われ、教職員の資質向上や児童生徒の学力向上が図られたほか、実践研究成果の普及に努めた。
課 題	教員の授業力向上が児童生徒の学力向上に結びつくよう研究内容の更なる改善を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の資質向上及び児童生徒の学力向上に努める。

項 目	校務支援システム管理事業（継続）
目 的	校務支援システムの運用により、各小中学校の校務軽減と情報の共有化を通じて、教育の質の向上を図る。
取組実績	・市内全ての小中学校で教職員の校務用パソコンによる校務支援システム(C4th)を運用
成 果	市内全ての小中学校において校務支援システムを活用し、業務の効率化が図られた。 【主な業務内容】学籍管理、出席簿、学校日誌、成績管理、出勤簿機能
課 題	全ての教職員が校務支援システムをしっかりと使いこなせるよう、研修やサポートの充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も校務支援システムを活用した業務改善に取り組む。

項 目	小中学校教職員用パソコン整備（新規）
目 的	教職員用校務用パソコンの更新やOSのアップグレード等を行い、教職員の校務環境を整備する。
取組実績	・教職員用パソコン購入 311 台（小学校：188 台、中学校：123 台） ・既設パソコンのOSアップグレード設定 54 台（小学校：37 台、中学校：17 台） ・既設パソコンへの Office インストール 6 台（小学校：6 台）
成 果	機器の更新及び最新OSへの移行により、処理速度の向上やセキュリティ強化が図られ、教職員の校務における業務効率が改善した。
課 題	耐用年数等を踏まえた、計画的な更新、整備が必要である。
今後の方向性	本事業は令和7年度で完了したが、今後も教職員の校務環境の整備に努めていく。

項 目	学校教職員健康診断事業（継続）
目 的	教職員を対象に疾病等の早期発見、早期治療による健康管理を推進するため、健康診断を実施する。
取組実績	・学校に勤務する教職員 199 名の健康診断を実施（うち、要再検者 59 名）
成 果	健康診断を定期的実施することにより、教職員の健康管理が図られている。
課 題	再検査対象者や未検査者に対する健診の勧奨が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の健康管理の推進に努める。

項 目	網走南ヶ丘高等学校定時制振興補助事業（継続）
目 的	定時制高校において、社会の変化に対応した教育を推進するために教材教具の整備を図る。
取組実績	・網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対する補助（90 千円）
成 果	教材教具を整備することにより、教職員の指導方法の充実及び生徒の学習支援に寄与した。
課 題	入学者の確保対策が必要である。
今後の方向性	社会の変化に対応した教育の充実・推進を図るため、今後も事業を継続していく。

項 目	網走南ヶ丘高等学校定時制生徒通学手段確保事業(継続)
目 的	定時制生徒の下校時タクシー乗合利用で、利便性の向上と安全確保を図る。
取組実績	・ 網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対する補助 (3,657 千円) ・ 実績 延べ 1,080 人利用 利用日数 181 日 (実利用人数：21 人)
成 果	夜間の下校時における利便性の向上と安全な下校手段の確保が図られた。
課 題	入学者の確保対策が必要である。
今後の方向性	引き続き、下校時の安全確保を図っていく。

項 目	魅力ある高等学校あり方検討事業 (新規)
目 的	網走市内の高等学校 2 校の将来的な配置存続に向けた魅力向上について検討する。
取組実績	・ 網走市内の高等学校の在り方検討協議会の開催 (6 月、8 月、9 月、10 月、11 月、1 月、2 月)
成 果	網走市内公立高校の存続及び魅力向上に関する協議成果とアクションプラン (ver. 1.0) の策定
課 題	2 校の将来ビジョンに基づいた、更なる魅力向上に向けた取り組みの検討
今後の方向性	本事業は今年度で完了しており、今後は高等学校魅力向上事業補助金において、市内 2 校の存続に向けた取り組みを推進していく。

社会教育の推進

8 生涯学習

(1) 生涯学習を進める体制や意識づくりの充実

項 目	まなび塾フェスティバルの開催（継続）
目 的	生涯学習活動を広げるため、エコセンター2000 を生涯学習の拠点として位置付け、市民から講師・企画を募りながら市民誰もが、いつでも楽しく学び続けるためのきっかけづくり・ステップアップの場を創出する。
取組実績	・実施主体 あばしりまなび塾フェスティバル実行委員会、網走市教育委員会 ・開催日時 11 月 23 日（日・祝） ・会 場 オホーツク・文化交流センター ・開催内容 出展ブース 20、ロビーパフォーマンス 3、子どもフリーマーケット 9 団体 ・来 場 者 約 1,058 名（子どもフリーマーケット約 814 名） ・参加スタッフ 186 名
成 果	令和 7 年度は、工作や音楽、書道、茶道、測量、空手などを体験学習できるブースを設置して、参加者に学びのきっかけ、ステップアップの機会を提供した。毎年、エコセンター2000 の開館記念日（11/23）に開催しており、市民にも定着したイベントとして、毎年多くの市民参加を得ている。
課 題	エコセンター利用サークルの活動発表を中心に実施しているが、生涯学習活動拡大のため、幅広い周知や参加呼びかけなどを行っていく必要がある。
今後の方向性	個人・サークル等の紹介・発表の場として、市民の生涯学習への取組を喚起する機会として必要な事業であり、実行委員会と十分な協議の上、事業を継続していく。

項 目	大きなかぶ応援事業（自主学習グループ活動促進事業）の実施（継続）
目 的	市民団体・サークルが自主的に行う学習会・講習会などに対し、講師謝金を助成することにより、市民の学習意欲を喚起し生涯学習の推進を図る。
取組実績	・対 象 団体・サークル会員相互の学習会、市民が参加する学習会、5 名以上の参加者が見込まれる学習会とし、運営補助的事業を除く。 ・要 件 開催する場所・時間・形式は問わない。 講師は、日常活動の指導者を除く外部からの特別講師とする。 ・支援内容 講師謝金の助成。 ・事業実績 12 団体 12 件 参加者 203 名（講演会 4、ワークショップ 8）
成 果	令和 7 年度は、12 団体より 12 件の申請を受理し、内 4 団体が初めての申請であり、事業の市民への浸透が図られ、市民の学習意欲の喚起につながっている。
課 題	自主的な学習・活動のさらなる推進のために幅広い周知 PR が必要
今後の方向性	自主的な学習・活動の拡充に向けて引き続き取り組んでいく。

項 目	生涯学習推進指導員バンクの登録（継続）
目 的	市民の学習機会を拡充するため、豊富な経験や知識、技能をもつ市民を「網走市生涯学習推進指導員バンク」に登録し、学習成果の還元のを提供するとともに、学習者が自ら学ぶ機会を創出するための指導者情報を提供することを目的とする。
取組実績	・登録者 17 名 ・指導内容 28 項目（7 部門 17 分野） ・指導先 まちの達人出前事業講師 網走市民まなびすと講座講師 網走市民てづくりすと講座講師 子ども講座開設事業「ロセトクラブ」講師 子ども講座開設事業「夏休み教室、冬休み教室」講師 ほか
成 果	市民の学習・文化活動に対するニーズは様々だが、学習相談を経て指導者情報を提供することで、市民の生涯学習の充実が図られた。また、指導者の学習成果の還元の間として、指導レベルに応じた指導機会を用意することができた。
課 題	市民が求める学習内容と市民講師の指導内容との適合を意識しながら、登録者の活動機会の提供を進めていく必要がある。
今後の方向性	市民の学習機会を拡充するとともに、指導者への学習成果還元のを提供することは登録者の資質向上のほか、生きがいの高揚を図る上でも重要なことから、登録者との意見・情報交換や周知PRなどを行い、今後も引き続き取り組んでいく。

項 目	子どもと遊ぼうボランティア隊の登録（継続）
目 的	地域社会全体で子どもたちの活動を支援する場の提供が求められていることから、子どもたちと楽しく活動するボランティアを広く市民から募集する。
取組実績	・登録者 28 名 ・登録内容 工作、音楽、料理、裁縫、美術、書道、ガーデニングなど 19 種類 ・実施内容 土曜日、日曜日に「ロセトクラブ」として実施（21 教室、224 名参加）
成 果	登録された講師により「ロセトクラブ」として、令和7年度は21教室開催となった。
課 題	登録者の主体的な取組を推進するため、活動意向や意見を把握する必要がある。
今後の方向性	趣味や特技を生かしボランティアとして活動していただいており、土日の児童の活動支援に必要な事業であることから、今後も引き続き取り組んでいく。

項 目	北海道公民館大会の開催支援（新規）
目 的	北海道公民館協会及び北海道公民館振興首長会主催の「第 69 回北海道公民館大会 in あばしり」の開催を通じて、教育委員、社会教育委員及び社会教育施設審議会委員などの参加により、公民館機能の充実や今後の取り組みの方向性など情報共有を図るとともに、公民館活動を通じた人づくり・地域づくりの可能性について検討を行う。
取組実績	実施主体：第 69 回北海道公民館大会 in あばしり実行委員会 ・大会名称：第 69 回北海道公民館大会 in あばしり ・開催日時：10 月 16 日（木）13:00～17:30、10 月 17 日（金）9:10～12:00 ・大会テーマ：「公民館がつくる、人づくり・地域づくり」 ・開催内容：【16 日】開会式、表彰式、歓迎アトラクション（網走市豊郷神楽保存会）、行政説明、基調講演、パネルディスカッション（高校生大学生） 【17 日】分科会、全体会、閉会式 ・基調講演：「地域に出向き共に考え取り組む公民館」 大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター教授 岡田正彦 氏 ・パネルディスカッション： 「未来につながる公民館活動～高校生・大学生の事業参加から得られるもの～」 寿都高校・網走南ヶ丘高校・網走桂陽高校生、東京農業大学大学生の参加 ・分科会：①「社会教育施設・公民館再編の課題」 ②「情報技術を活用した社会教育事業」 ・大会参加者：202 名（参加自治体数 41 自治体）
成 果	19 年ぶりに網走市で開催された全道公民館大会には、道内外より 202 名の参加者があり、公民館活動の意義や今後の取り組みについて、熱心な意見交換が行われた他、パネルディスカッションでは、地元の南ヶ丘高校・桂陽高校・東京農大の学生が参加するなど、若者の参加も得られた。
課 題	大会運営に関する課題はないが、大会で討議された社会教育施設の再編、情報技術を活用した取り組みの推進、高校生・大学生などを交えた事業の取り組みなど、積極的な推進が求められる。
今後の方向性	大会の主管については、北海道公民館協会からの依頼に基づくが、大会を主管するには人員体制やそれまでの取り組み成果が求められることから、日頃より社会教育長期計画に基づいた実直な取り組みを行うことが大切である。

（２）学習情報の収集・提供・相談事業の充実

項 目	広報紙、ホームページ、ソーシャルメディア等による学習情報の提供（継続）
目 的	社会教育関係事業の周知を図ることにより、市民の幅広い参加を得て事業を推進する。
取組実績	・市広報紙「広報あばしり」に「エコーだより（まちの元気）」を掲載（月 1 回） ・市ホームページによる情報提供、報道機関への周知・記事掲載 ・登録者へのメールによる情報提供（お知らせメール@あばしり） ・市公式 SNS（Facebook、X、LINE）による情報提供 ・小中学校、幼稚園等関係機関への事業チラシ等の配布 ・新聞かわら版を活用しての周知 ・ポスターを作成し市内各所に掲示 ・オホーツク・文化交流センター情報コーナーの充実、館内での講座レポート掲示（サークル活動支援：作品展示、販売など）
成 果	各種媒体の活用により、社会教育事業の周知や活動の推進が図られた。
課 題	より効果的な P R、情報化社会に対応した取り組みが必要である。
今後の方向性	引き続き、デザインなどの工夫をしながら広報紙等での周知を図っていく。ホームページや SNS などを活用し、若い世代を含めて広く情報提供に努める。

(3) 生涯学習関連施設の整備、機能向上

項 目	オホーツク・文化交流センター改修事業（拡充）
目 的	オホーツク・文化交流センター設備更新及び修繕を行う。
取組実績	・空調設備改修工事 103,510 千円 ・1 階女子トイレ洋式化工事（7 箇所） 6,413 千円
成 果	建設後 25 年が経過し、施設の長寿命化対策として、空調設備更新、1 階女子トイレの洋式化を実施した。
課 題	設備の耐用年数や施設の安全性を考慮し、定期的な保守メンテナンスを実施しながら、計画的に設備・備品の更新を図っていく必要がある。
今後の方向性	エコセンターは、市民の学習、芸術及びレクリエーション活動の場として重要な施設であることから、今後も安全安心な施設利用が出来るよう設備の維持更新に努めていく。

(4) 図書館の充実

項 目	図書管理システム機器等更新事業（継続）
目 的	蔵書登録、利用者登録や貸出・返却の管理、書籍の検索など図書館における基幹業務に使用している機器等を更新する。
取組実績	PC・プリンタ等のハード機器及びソフトウェア 1 式を更新
成 果	機器の更新により、基幹業務に不可欠な環境を維持することができた。
課 題	一定期間経過後の機器更新等の更新
今後の方向性	定期的に更新を行い、基幹業務に不可欠な機器等の維持・管理に努める。

項 目	魅力ある図書や幅広い資料の収集・整備・提供（継続）
目 的	新鮮で魅力ある図書や資料の収集を図り、利用者に幅広く情報を提供することにより多くの市民が読書に親しむ環境づくりを推進する。
取組実績	・資料受入数：図書 3,757 冊（内購入 3,298 冊）、雑誌 863 冊（内購入 642 冊）、視聴覚資料 46 点（内購入 34 点）、地方資料 400 冊（内購入 46 冊） ・図書館蔵書数：R7 年度末 207,185 冊（R7 年度：購入数 4,020 冊、寄贈他 1,047 冊） ・図書貸出人数 23,936 名、貸出冊数 102,372 冊、来館者数（本館）92,315 名
成 果	市民の読書に対する興味や関心を深めるために新たな図書や資料の提供ができた。
課 題	書架スペースと収集冊数のバランスを考慮した購入と除籍
今後の方向性	現図書館への移転に伴う購入図書に年数経過による劣化及び陳腐化が生じているため古くなったものの更新を積極的に進め、魅力ある図書や資料の収集を継続する。

項 目	電子図書整備事業（拡充）
目 的	市民が来館せずに 24 時間どこでもいつでもインターネットを利用して電子書籍の閲覧、貸出、返却が可能な電子図書館のサービスを提供する。
取組実績	・電子図書数 導入時（令和 2 年 12 月 15 日）2,000 点、令和 7 年度末 6,498 点 ・ID・パスワード申込者数 1,251 名、利用者数 1,424 名、貸出冊数 5,259 冊
成 果	電子図書館サービスにより多様な読書環境を市民に提供することができた。
課 題	幅広い年齢層の利用促進
今後の方向性	電子図書館の周知を継続して行い、あらゆる世代が楽しめるような魅力ある資料の収集と、電子図書館の利活用の促進に努める。

項 目	地方資料整備事業（継続）
目 的	図書館機能を活用した調べものや地域情報整備のため、網走市や北海道など地方に関する資料の収集を図るとともに、一部の資料について電子化を図る。
取組実績	・資料受入数：400 冊（うち購入 46 冊） ・地方資料の電子化 10 点 ※電子図書館で閲覧、貸出可能 ・地方紙（新聞）の電子化 ①網走新聞 S22 年 7 月～H16 年 7 月発行分 ②網走新報 S22 年 1 月～S37 年 12 月発行分
成 果	地方資料の収集及び劣化の激しい地方資料について電子化が図られた。
課 題	資料原本の劣化により電子化に特殊な手法が必要なため、費用が高額
今後の方向性	地方資料の収集を継続するとともに、資料の電子化を計画的に進め、劣化資料の保全を図る。

項 目	地域分庫事業（継続）
目 的	市立図書館から遠い地域において、読書に親しむ環境の整備と充実を図るため、地域分庫を設置する。
取組実績	・市内 10 箇所の地域分庫の維持管理 ・地域分庫利用者数 856 名 貸出冊数 1,138 冊 ・「分庫だより」の作成・配布（郊外地区 4 分庫） ・蔵書の入替え・整備 266 冊購入
成 果	市内全域にわたる読書機会の充実が図られた。
課 題	地域や施設管理者などとの連携強化
今後の方向性	市内全域にわたる読書環境の整備が図られており、継続開設と蔵書整備や管理運営の充実を図っていく。

項 目	ふるさと学習支援事業（継続）
目 的	地域情報の発信を図る図書館の役割とし、市民にふるさと網走を学習する機会や資料の提供を図るとともに、小中学生に対する地域学習の支援を行う。
取組実績	・企画展示の開催（年 4 回） 第 1 回「絵はがきでみる網走」 5/15～29 期間中来場者 3,432 名 第 2 回「北海道の作家」（道みんなの日特別展示） 7/9～7/20 期間中来場者 3,607 名 第 3 回「図書館のあゆみ」 11/19～30 期間中来場者 3,122 名 第 4 回「あばしりかるたを楽しもう」 3/4～15 期間中来場者 2,423 名 ・「ふるさとあばしりコーナー」を設置し、地方資料を紹介
成 果	期間中の来館者に地域課題についての学習機会を提供することができた。
課 題	・地方資料の利用状況等に基づく魅力ある資料展示の検討 ・単発的な展示、紹介から、収集した資料の長期的、系統的な P R 方法の検討
今後の方向性	ふるさとあばしりコーナーの資料充実などを通して、市民に対するふるさとの紹介と学習機会の提供を継続する。

(5) 読書の普及、読書活動の促進

項 目	子供の読書活動推進計画（R7～R11）の策定（継続）
目 的	子どもたちが読書活動を通して豊かな感性や創造力を育み、じっくり考え、自ら判断する力を身につけること、また、子どもの発達段階に応じて読書に親しむ環境の充実や読書活動の一層の推進を図ること。
取組実績	パブリックコメントを実施、庁内検討委員会、計画策定委員会を開催し、教育委員会へ上程
成 果	令和7年3月6日策定
課 題	計画年度終了に併せて次期計画の策定が必要
今後の方向性	計画に基づき目標の達成を目指す。

項 目	課題解決型常設展示の実施（継続）
目 的	図書館の本は、規則的に分類・配置（日本十進分類法）されているが、利用者の関心の高いテーマ設定により、分類番号によらずテーマごとにまとめて配置することで、利用者の利便性の向上を図る。
取組実績	日本十進分類法とは別に分類して「健康の本」、「いきいきシニア」、「くらしの本」等のコーナーを設置
成 果	利用者の関心の高いテーマであり、図書館活用のきっかけ作りとなっている。
課 題	配置可能な本のテーマやジャンルが限定される。
今後の方向性	配置する本の適切な選定を行いながら、利用者に喜ばれるコーナーづくりをめざす。

項 目	ブックスタート事業の実施（継続）
目 的	乳児期から本に親しむ環境を整え、読書活動の基礎を育むとともに、図書館の利用促進を図る。
取組実績	・ゼロ歳児とその保護者に絵本と図書館利用パンフレットを贈る。（132名） ・子ども名義のかしだしカードの作成（75名）
成 果	乳児期から本に親しむことで、将来の読書活動に結びつくきっかけづくりとなっている。また、親子のコミュニケーションづくりの一助となっている。
課 題	子どもが自分で本を読む年齢になるまでのフォローアップや読める年齢になったときの支援が必要。
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

項 目	学校巡回図書（クリオネ文庫）整備事業（継続）
目 的	小学校と連携し、児童の身近な場所である学校で本に親しむ環境づくりを進めるため、図書館の本を各教室に配置し、子どもの読書活動の機会の充実を図る。
取組実績	・小学校各教室に30冊ずつ図書を配置。（1～3ヶ月ごとに巡回） ・配置学級数：9校 57学級 配置図書：3,300冊 ・蔵書の入替え・整備 463冊購入
成 果	学校の休み時間や授業等で活用され、小学生が本に接する機会が増えている。
課 題	図書の計画的更新完了後、一定期間経過した時点で再更新が必要。
今後の方向性	子どもの読書活動の一つとして定着してきており、学校と連携しながら事業を継続するとともに、基金を活用しながら計画的に図書の更新を進める。

項 目	ブックトーク事業の実施（継続）
目 的	小学生の読書量が減少傾向にある中、読書への関心を高め、読書習慣を育むため、ブックトークの手法を活用する。
取組実績	市内 8 小学校 11 クラスで実施 参加合計 219 名
成 果	児童の紹介本への興味・関心が高まり、多くの児童が紹介本を手に取り熱心に読んでいた。また、担任以外の教諭の実施内容への関心も高く、見学も多数あった。
課 題	学校及び講師のスケジュール調整
今後の方向性	本の魅力を引き出すプレゼンテーションの優れた技術を有する講師の招聘により、児童の読書への関心を高めるため継続して実施する。

項 目	子ども読書週間記念事業の実施（継続）
目 的	子ども読書の日（4/23）及びこども読書週間（4/23～5/12）に合わせて図書館事業を実施し、子どもたちの図書館利用促進と読書活動の推進を図る。
取組実績	・ 記念イベントの開催 クレヨンカンパニーいろいろげきじょう 5/18 参加 132 名 ・ 企画展示の実施 「日本絵本賞に輝いた絵本たち」 4/23～5/11
成 果	乳幼児を含む家族で図書館に親しむ機会の提供と子どもの読書活動の推進に一定の役割を果たした。
課 題	工夫を凝らした事業の開催が必要。
今後の方向性	記念事業を継続して開催することにより、子どもの読書活動の推進を図る。

項 目	よみきかせ会・お楽しみ会等の開催（継続）
目 的	子どもの読書への関心や興味を高め、読書活動の推進を図るとともに、乳幼児を含めた読書環境の充実を図る。
取組実績	・ よみきかせ会 ①えほんのもり 48 回 333 名参加 ②子育て支援センター 6 回 56 名参加 ※「えほんのもり」よみきかせ会は高校生を含むボランティア団体により実施 ・ お楽しみ会開催（夏・冬） 31 名参加 ・ 一日図書館員体験（夏・冬）58 名参加
成 果	よみきかせを通じて、子どもに読書の楽しさを伝えることができた。 図書館の仕事に触れる機会を通じて、図書館に親しみを感じるきっかけを提供することができた。
課 題	ボランティア団体の会員減少による連携の維持。
今後の方向性	乳幼児から児童までを対象として本や読書に親しむきっかけとなる事業を継続して実施していく。

項 目	ボランティア団体等との協働による読書機会の充実（継続）
目 的	読書活動に対する多様なニーズに対し、図書館ボランティアとの協働により幅広い読書活動の推進を図る。
取組実績	対面朗読サービス、視覚障がい者の方々への録音サービスの実施、乳幼児向け布絵本の作製、「えほんのもり」「高齢者施設等」でのよみきかせなどを実施
成 果	点字翻訳や朗読CD作成など幅広い読書サービスの提供ができた。
課 題	ボランティアの新たな人材の確保。
今後の方向性	幅広い読書活動の推進のため、今後もボランティア団体との協働による事業を継続する。

項 目	ボランティア養成事業（継続）
目 的	ボランティア団体等の学習機会を提供することにより、ボランティア活動を支援し、市民との協働による図書館活動の充実を図る。
取組実績	・外部講師を招いた読み聞かせ講座等を開催 11/8 大人のための絵本セラピー 7名参加 12/14 朗読・読み聞かせ講座 13名参加 ・ボランティア団体メンバーの指導によるフェルト工作イベントの開催 8/1 「フェルトマスコットを作ろう！」11名参加
成 果	新たな要素を加味した講座等の開催により、ボランティアの視野を広げるきっかけとなり、また、参加者のボランティア団体への新規加入にもつながった。
課 題	講座等の内容は基本を重視しながらも常に工夫が必要。
今後の方向性	多様なボランティア活動があるため、今後も各団体の意見を聞きながら、必要に応じた講習会などを開催していく。

項 目	図書館まっりの開催（継続）
目 的	図書館活動のPRによる図書館の利用促進と、市民の読書活動の推進に寄与する。
取組実績	令和7年10月19日（日）開催 ・古本市 来場者700名（主催：あばしり市立図書館友の会） ・子ども俳句大会 応募数818点（展示10/15～19、表彰式10/18） ・チームMints公演 参加者90名、・電子図書館体験会 参加者80名 ・布絵本展 10/15～19 期間中来場者 1,585名
成 果	恒例のイベント開催により多くの来場者があり、図書館の利用促進及び読書活動推進が図られた。
課 題	今後も関係団体の協力を得て、連携した事業内容や展示の工夫が必要。
今後の方向性	市民の図書館利用のきっかけとなることから、今後も市民に親しまれる事業として継続開催していく。

項 目	読書ノートの配布（継続）
目 的	利用者が自ら読了した書籍名等を記録する読書ノートを無料提供し、読書ノートの活用による読書に対する意欲の維持、向上に資する。
取組実績	・令和7年度配布数 ①小学生用 17冊 ②中高生用 3冊 ③一般用 22冊 ・図書館ホームページにダウンロード用ファイルの掲載
成 果	一定数の利用者に配布があり、活用されている。
課 題	読書ノートの効果的な周知。
今後の方向性	読書活動推進のための有効なツールの一つとして配布を継続していく。

項 目	絵本パック「ベビークリオネ」「プチクリオネ」の貸し出し（継続）
目 的	保護者にとって年齢に応じた選定が難しく悩むことが多い乳幼児向け絵本について、適切な資料を提供し、乳幼児と親が絵本に親しむきっかけとする。
取組実績	司書が年齢別に選定した絵本パックを作り、貸し出す。 ・「ベビークリオネ」（0～3歳向け5冊、20セット）貸し出し：134回 ・「プチクリオネ」（4～6歳向け5冊、10セット）貸し出し：61回
成 果	乳幼児親子の図書館利用が促進され、読書のきっかけづくりとなった。
課 題	今後も親子の利用拡大に向け、絵本の充実や更新が必要。
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

9 社会教育

(1) 全ての市民に開かれた学習の場の提供と学習環境の整備

項 目	網走市民まなびすと講座の開設（継続）
目 的	市民生活向上に関わる地域課題や現代的な課題を学習テーマとして講座を開設する。
取組実績	・ 初心者のための手作みそ友講座（春・秋）（年2回）計12名 ・ ウィルタ刺しゅう入門講座（10～11月・全5講座）5名（延べ19名） ・ 原子模型を作ろう（12月）5名
成 果	食や伝統文化、科学など、生活に関わる身近なテーマを講師とともに企画開設し、市民生活の向上につなげている。
課 題	市民が地域課題や生活課題を解決するきっかけとなる学習の機会として、常に地域や市民活動に関心を払い企画を行う必要がある。
今後の方向性	関係機関や市民との連携、協働により、地域課題の把握に努めながら学習機会を提供していく。

項 目	網走市民てづくりすと講座の開催（継続）
目 的	市民が自ら講座を開催する支援を行い、指導技術の向上やサークル活動の活性化を図る。
取組実績	・ バイオリンをはじめよう（4月・全5講座）9名（延べ42名） ・ 小筆講座～般若心経から学ぶ写経・実用書道～（6月・全2講座）11名（延べ22名） ・ 初心者のための編み物講座（9月・全2講座）6名（延べ11名） ・ クラフトバンド講座（9月・1日2回講座）8名 ・ 皿回し講座（11月）20名 ・ ついやってみたいくなるものづくり・手づくり講座（輪ゴム銃づくり）（3月）6名
成 果	市民ボランティア講師により、多彩な内容の成人講座を開設することができた。
課 題	学習成果の還元を開催目的とするほか、市民の要望に応じた分野、開設時期などを検討する必要がある。
今後の方向性	市民の学習成果の還元の機会として、主体的な講座開設とサークル活動の活性化につなげていく。

項 目	あばしり学講座の開設（継続）
目 的	網走の魅力や価値を再発見、再確認するために自然環境や歴史的資源を活用しながら、歴史・文化・産業等をテーマとする講座を創設し、参加者同士の交流を深め、学びからまちづくりやひとづくりを進め、地域の活性化を目指す。
取組実績	■単講座（対象：一般市民）参加者 43 名 ①「網走湖徹底調査&網走川下り」（7/19）2 名 ②「クルマの未来を体感しよう！デンソーテストセンター」（8/23）11 名 ③「学んで食べて再発見！天空ウォーキング in 天都山」（8/31）11 名 ④「大人になった今こそ！給食で網走の魅力発見～スペシャルカレーの秘密」（2/14）19 名 ■ロセトコース～わくわく探検隊～（対象：小学 4～6 年生）参加者延 109 名 ①「オリエンテーション」（6/15）11 名 ②「網走湖徹底調査&網走川下り」（7/13）14 名 ③「小麦ができるまで」（8/2）9 名 ④「エネルギーができるまで」（9/6）14 名 ⑤「網走の秋を満喫♪～果物狩りへ行こう！～」(10/4) 16 名 ⑥「中間報告会」（11/15）11 名 ⑦「鉄道について知ろう！」（1/24）12 名 ⑧「おーろら乗船体験！」（2/21）11 名 ⑨「ロセトコース体験報告&展示会」（3/7）12 名 ■学生 HERO' S（対象：中学・高校・大学生） ①「ボランティア研修会」（6/15）12 名 ②「あばしり科学フェスティバル」（7/6）23 名 ③「網走湖徹底調査&網走川下り」（7/19）12 名 ④「宇宙の学校（第 1 講座）」（7/27）10 名 ⑤「ロセトコース～小麦ができるまで」（8/2）3 名 ⑥「サマーデイキャンプ&育成者研修会」（8/30）2 名 ⑦「ロセトコース～エネルギーができるまで」（9/6）3 名 ⑧「宇宙の学校（第 2 講座）」（9/21）4 名 ⑨「ロセトコース～果物狩りへ行こう！～」(10/4) 7 名 ⑩「あばしりまなび塾フェスティバル」（11/23）8 名 ⑪「宇宙の学校（第 3 講座）」（11/29）4 名 ⑫「あばしり市子ども大会」（12/7）17 名 ⑬「ロセトコース～鉄道について知ろう！～」(1/24) 6 名 ⑭「宇宙の学校（第 4 講座）」（1/25）5 名 ⑮「ロセトコース～おーろら乗船体験！」（2/15）13 名 ⑯「体験報告&展示会」（3/7）1 名 ■青年講座 U-35（対象：18～35 歳） ①「第 61 回オホーツク流水まつり市民雪像づくり参加」（12/9～2/7）計 11 回 ユーモア賞受賞（雪像名「鮮度抜群！ダイレクト寿司」）
成 果	各世代に体験学習を通じて、網走の自然や産業の魅力についての学びを提供したほか、学生 HERO' S については、高校生・大学生がジュニアリーダーとしての役割を担うとともに、異世代との交流の中で社会的役割を認識しながら郷土を学ぶ機会となった。
課 題	まちづくりや人づくりにつながる題材の研究や手法の工夫によって魅力ある講座づくりを進める必要がある。U-35 の参加者が減少傾向にあるため、参加者の拡充と魅力ある企画づくりが課題である。
今後の方向性	関係機関や企業、団体などとの連携により、参加者相互の交流を含めて網走の魅力の発信と新たな文化の創造につながる講座展開に取り組んでいく。

項 目	寿大学の開設（継続）
目 的	社会の変化に適応するために必要な知識や生活技術の習得、健康の維持など、積極的な高齢者の生きがいを求める学習の場を提供する。
取組実績	・大 学 開設日 4月～翌年3月／第2・第4水曜日 会 場 エコーセンター2000 内 容 一般教養講座（全9講座） クラブ活動、自治会活動、入学式、賀寿祝賀会、意見発表会、卒業式並びに修了式 ・大学院 開設日 4月～翌年3月／第3水曜日 会 場 エコーセンター2000 内 容 郷土史コース（1年）、自分史コース（2年） 開設数 10回 ・在籍数 192名（1年18名、2年24名、3年25名、4年11名、 大学院22名（1院12名、2院10名）、生涯研究生92名
成 果	高齢者の生きがいや生活技術の習得と社会参加の促進のために必要な学習機会を大学自治会の協力により提供できた。
課 題	大学院で研究論集の作成に取り組むことに抵抗のある学生がいることから、大学時から文章を書くことに慣れ親しむ学びの連動性が必要である。また、時代に応じたカリキュラム編成を検討する必要がある。
今後の方向性	高齢者の学習意欲に対応する学習機会の提供と地域社会との交流を通じて、高齢者の社会参加を促す取組を推進していく。

項 目	網走市民大学の運営支援（拡充）
目 的	幅広いジャンルの講師を招聘し、市民に学習機会を提供する事業に対し支援することにより、市民の学習意欲を高め、新しい知識の習得や教養の向上を図る。
取組実績	実施主体：網走市民大学 ■第50期 網走市民大学講座 ・開設日：7月～10月、講座数：全5講座 ①「私たちの食はどうなる？～フードロスのない社会を目指して～」 東京農業大学副学長 上岡美保 氏（7/1、参加者204名） ②「とらわれない生き方」 漫画家・文筆家・画家 ヤマザキマリ 氏（7/19、参加者380名） ③「軌跡の7本指のピアニスト～トーク&ピアノ・コンサート～」 ピアニスト 西川悟平 氏（8/9、参加者258名） ④「歴史に学び、未来を読む」 歴史家・作家 加来耕三 氏（9/4、参加者183名） ⑤「ライオン、クジラ、ネコにヒト、・・・動物たちのこの素晴らしき世界」 動物写真家 岩合光昭 氏（10/18、参加者387名） ・会 場：オホーツク・文化交流センター エコーホール ・内 容：自然科学・人文学・社会科学など多様な分野の著名人による講演 ・参加数：全講座登録者203名、単科講座受講者545名、延受講者1,412名
成 果	第50期の節目を迎えた市民大学講座は、網走信金100周年記念事業による寄附金をもとに、今まで受講者から要望はあったがなかなか呼ぶことの出来なかった講師を招き、過去最高の受講者を記録し、より多くの市民へ学びの場の提供が行われた。
課 題	受講者の多くは高齢者が中心であることから、若者などにも受講してもらえるよう幅広い層への周知や講師選考などの検討が求められる。
今後の方向性	学習プログラムの編成方法の検討や市内の他の団体・機関で企画される講演会等と連携するなど、工夫を図りながら引き続き取り組んでいく。

項 目	北海道科学大学との連携講座の開催（継続）
目 的	北海道科学大学と連携し、市民が幅広い分野について学ぶことができる公開講座を開催する。
取組実績	■北海道科学大学連携講座 「生成ＡＩを使ってアプリを作ろう！」 ２月２８日（土）参加者３５名（小中学生講座２０名、一般向け講座１５名） 協力企業：㈱ipsera（札幌市）
成 果	小中学生及び一般社会人を対象に、生成ＡＩについて学習する講座を開設し、生成ＡＩの知識を深めるとともに、生成ＡＩを実際に使ってゲームづくりや音楽づくりを体験する機会を提供した。
課 題	高等教育機関の知的技術と市民が求める知識、地域課題の解決につながる講座内容とを連動させた講座の企画を行っていく必要がある。
今後の方向性	北海道科学大学や民間企業などと連携して、充実した講座を開催していく。

項 目	暮らしをデザイン講座の開催（継続）
目 的	日々の暮らしや家庭環境の整え方を学び、家庭や学校、地域社会において、現代的課題の解決策を自らデザインしていくきっかけの場として講演や講座を開設する。
取組実績	■暮らしをデザイン 2025 ・講演名 「インターネットとSNSを正しく楽しく便利に使おう！」 ・開設日 11月16日（日）10:00～11:30 ・講 師 一般社団法人日本メディアリテラシー協会代表理事 寺島絵里花 氏 ・会 場 エコーセンター2000 大会議室 ・内 容 近年誰もが容易に情報へアクセスできる一方、インターネットやSNSなど多様なメディア情報の特性を理解し、正しく受け取り、適切に発信する姿勢を学ぶ機会を提供。 ・参加者 30名
成 果	身近な不安や疑問に寄り添いながら、インターネットやSNSとうまく付き合うために今すぐ役立つ知識や考え方をわかりやすく学ぶ機会を提供した。
課 題	市民に関心を引くテーマや地域社会や現代的課題をテーマに取り入れ、講演・講座を企画していく必要がある。
今後の方向性	様々な生活課題や現代的課題に関しての学習機会を設定し、市民生活の向上につなげていくための内容を研究していく。

（２）子どものための学習や体験の場の提供

項 目	放課後子ども教室（遊村あばしり）推進事業（継続）
目 的	子どもたちが放課後や週末を安全で安心して活動できる場を市内小学校区に開設し、市民団体の個性を活かしたプログラムを通じて、体験・交流を目的とした「子どもの居場所」の提供を行う。（通称：遊村あばしり）
取組実績	実施主体：網走市放課後子ども教室推進事業実行委員会 ・開設日 前期：5～9月、後期 10～2月／平日 15時～17時／休日 10時～12時 ・開設数 210回 ・会 場 市内6ヵ所（コミュニティセンターほか） ・指導者 市内4団体（指導者28名） ・内 容 ①スポーツライティング、トランプ、スポーツ教室 ②遊び、水泳、書道、読み聞かせ、学習支援ほか ③語学学習、工作ほか ④アート体験 ・参加数 140名（延1,695名）
成 果	市民団体やNPO法人等有償ボランティア活動として実行委員会を組織し、それぞれの団体の個性を活かした学習・体験プログラムを提供することにより、子どもたちの放課後や週末に安全で安心な居場所を開設できた。
課 題	国費補助の額が減少する中、教室の安定的な運営を図る必要がある。 持続的な子どもの居場所を確保するため、指導者の確保・育成が必要である。
今後の方向性	地域の指導者や安全な活動場所の確保を図りながら引き続き取り組んでいく。

項 目	あばしり科学フェスティバルの開催（継続）
目 的	子どもたちが、理科や数学などを体験的に学べる科学ブースを市民が企画し、ボランティアなどの支援を通じて一つのイベントとして運営することで、網走の子どもたちの科学する心を育む機会を提供する。
取組実績	実施主体：網走市子どもフェスティバル実行委員会、網走市教育委員会 ・開催日時 7月6日（日）9:30～12:30 ・会 場 オホーツク・文化交流センター エコーホール ・開催内容 体験コーナー10ブース、サイエンスショー ・参加者 353名、参加スタッフ 78名
成 果	令和7年度は、10ブースの体験コーナーを設置し、多くの子どもたちに参加してもらい、理科や算数の原理を身近なものとして捉える機会を創出した。また、サイエンスショーでは開催以来初めて、ガールスカウトの子どもたちがショーを担当した。
課 題	市民指導者、ボランティアスタッフの確保などの課題があり、東京農大の学生や理科や数学に関心のある市民ボランティアへの働きかけが必要である。
今後の方向性	他の社会教育事業との連動により、市民指導者・スタッフのさらなる育成、東京農業大学との連携などに努めながら取り組んでいく。

項 目	ロセトクラブの開催（継続）
目 的	子どもの余暇活動を支援するため、市民ボランティアの指導者により学習機会を提供し、子どもの創造性や探求心を高めるとともに、個性や自主性を向上させる。
取組実績	■ロセトクラブ（単講座） 4月～翌年3月／21講座 25教室 参加者延 289名 内 容：学習支援、工作、書道、お菓子づくりなど 指導者／子どもと遊ぼうボランティア隊 11名
成 果	令和7年度は、四半期毎の教室募集と周知を図り、年 25 教室の開催となり、多くの子どもたちに学習機会を提供することができた。
課 題	市民ボランティアの主体的な企画運営としているため、開催時期や定員数などで指導者側と参加者側のニーズが異なることがある。
今後の方向性	指導者と職員が連携を図り、より効果的な運営方法を研究していく。

項 目	中学生、高校生への自習室開設（継続）
目 的	オホーツク・文化交流センターの空き室を中学生・高校生の自主学習の場として開放することにより、青少年の居場所づくり、学力向上に資する。
取組実績	■中高生への自習室開設 ① 5/24（土）～25（日）、5/31（土）～6/1（日） 利用者 17 名 ② 8/23（土）～24（日）、8/30（土） 利用者 24 名 ③ 11/8（土）～9（月）、11/15（土）～16（日） 利用者 31 名 ④ 2/7（土）～8（日）、2/11（水・祝）、2/14（土）～15（日） 利用者 65 名 ・開設場所 オホーツク・文化交流センター 学習室・研修室（空室解放） ・開設時間 午前9時～午後7時まで（中学生は午後6時まで） ・利用対象 中学生、高校生（大学生、専門学校生は除く）
成 果	令和7年度は、市内中学・高校のテスト期間前の土・日曜日を基本に、年間4期の開設期間（計16日間）を設定し、市内各中学校・高校へ周知を図り空室を開放した結果、延137名の利用となった。（中学生利用14%、高校生利用86%）
課 題	開放する部屋が満席となった場合は、必然的に図書館で学習する学生が増えることから、利用者が増加した場合の部屋確保が課題である。
今後の方向性	施設運営に支障のない範囲で利用者の要望を反映しながら今後も取り組んで行く。

項 目	子どもと動物ふれあい事業（継続）
目 的	動物とのふれあいは、子どもの情操の発達に有効であることから、子どもたちに動物とふれあう機会を設け、生命を大切にし、心豊かな子どもの育成を図る。
取組実績	■ふれあい動物園の開設 ・開 催 日 全7回（6/8、6/22、7/6、7/20、8/3、8/17、9/7）全て日曜日 ※9/21は暴風雨のため中止（年間8回企画） ・会 場 呼人スポーツ・トレーニングフィールド ・内 容 ウサギ、ハムスター、モルモット、ヒヨコ ・参 加 者 1,171名（子ども601名、大人570名）
成 果	東京農業大学と連携し、事業を行っており、子どもにとって動物とのふれあいは、楽しく貴重な体験であり、情操の発達に役立っている。
課 題	動物の負担や飼育状況を飼育委託先の団体と連絡調整しながら、開園手法を研究する必要がある。
今後の方向性	毎年、多くの市民が楽しみに来場されることから、今後も継続して実施する。

項 目	子ども夢育事業（継続）
目 的	中学生を対象に、夢や人生などをテーマとした講演を開催し、「夢を持って生きること」の大切さを学び、感性豊かな心を育むことで自分らしく生きる力を形成する。
取組実績	■令和7年度子ども夢育事業 ・開催日 10月30日（木） ・会 場 エコーセンター エコーホール ・講 師 白石 康次郎 氏（海洋冒険家） ・内 容 講師の経験や体験に基づき、壁にぶつかったときの対処方法や、「自分を見失わないこと」「信じること」が何より大切であり、そうすれば必ず自分の思い描いたとおりの人生なると力強い言葉を伝えた。 ・参加者 293名（市内中学校2年生・教職員等）
成 果	夢を持つこと、夢に向かって努力することの大切さなどを、講師の体験談を通じて学習することで、中学生が人生において大切なことを学ぶ機会となった。
課 題	講師選定や開催時期、場所などについて学校と連携して取り組む必要がある。
今後の方向性	学校と連携し、効果的な開催手法を研究しながら事業を進めていく。

項 目	夏・冬休み教室の開催（継続）
目 的	子ども（小学生）の夏休み、冬休みの活動を支援するとともに、創造性や探求心を育む教室を開催し、子どもの個性や自主性を向上させる。
取組実績	■夏休み教室（3講座4教室、参加者35名） ①「クラフトバンドでひまわりトレイとストラップを作ろう」（7/26）参加者13名 ※午前・午後開催（2教室） ②「しゃぼん玉だいじっけん」（7/30）参加者19名 ③「毛筆習字まずはリズムよくふでのトレーニングから」（8/3）参加者3名 ■冬休み教室（3講座3教室、参加者44名） ①「クリスマスにまつぱっくりスイーツを作ろう」（12/20）参加者23名 ②「フライパンで作るふわふわオムレットケーキ」（12/21）参加者18名 ③「色々な方法でかけ算をしてみよう」（1/17）参加者3名
成 果	子どもと遊ぼうボランティア隊の協力を得て、夏休み・冬休みに子どもの心身の健康・成長に資する学習機会を提供した。
課 題	夏休み・冬休み期間に、子ども向けの多様な体験教室を子どもと遊ぼうボランティア隊に企画実施してもらっているが、登録隊員が11名と限られているため、多くのボランティア隊の登録を呼びかける必要がある。
今後の方向性	夏休み・冬休みでの多様な学習プログラムを今後も検討していく。

(3) 学習成果を還元する機会の充実

項 目	学校支援地域本部事業の実施（継続）				
目 的	子どもたちの教育のために役に立ちたいとの想いを持つ市民ボランティアと学校のニーズをマッチングさせ、家庭・学校・地域が一体となって子どもを育てる体制を整える。				
取組実績	・実施主体：網走市学校支援地域本部事業実行委員会				
	・登録件数 個人 269 名、団体 19 団体				
	・支援内容	学習支援活動	14 校	43 件	ボランティア延数 582 名
		部活動指導補助	2 校	2 件	ボランティア延数 138 名
		登下校安全指導	7 校	7 件	ボランティア延数 949 名
		学校行事補助	3 校	3 件	ボランティア延数 8 名
		その他の支援	4 校	6 件	ボランティア延数 187 名
	合計（延数）	30 校	61 件	1,864 名	
成 果	平成 20 年度の事業開始以来、事業についての市民や教員の理解も進み、活動が定着している。また、ボランティアの高齢化や平日に参加できない課題があることから、大学生のボランティア登録及び学校支援活動に力を入れる必要がある。				
課 題	ボランティアの高齢化や平日ボランティアができるボランティア登録者が限られており、学校の要望に対して、なかなかマッチングできない事案が増えてきている。				
今後の方向性	市内全小中学校（15 校）及び養護学校（1 校）で事業を活用しており、コミュニティスクールなどと連携を図りながら、推進体制を構築していく。				

項 目	まちの達人出前事業の実施（継続）
目 的	豊富な経験や知識・技能をもつ市民の方が、その力を学校からの依頼のもと、授業講師として活かすとともに、講師の謝金を支援し、生涯学習の推進を図る。
取組実績	・対 象 市内小中学校の授業 ・要 件 1 校あたり原則 3 回を上限とする。授業時間は、1 回 2 時間程度とする。 ・支援内容 講師謝金（5 千円）を支援する。 ・事業実績 10 校 26 件 市民講師 10 名 2 団体 ・教科内容 総合的学習 10 件、家庭科 3 件、保健体育 11 件、美術科 2 件
成 果	総合的な学習の時間などを中心に、伝統文化やマナー講座、防災や性の授業など、各分野に精通した市民講師が活用された。
課 題	「学校支援地域本部事業」と本事業の調整を図り、市民の力で網走の子どもの学習を支援する事業として定着させていくことが必要である。
今後の方向性	学校職員への周知に努めるとともに、「学校支援地域本部事業」も含めた中で、市民の学習成果の社会還元の一つとして推進を図っていく。

項 目	学生ボランティア支援事業（継続）
目 的	地域の子どもたちのための教育委員会が主催する事業に、ボランティアとして参加する高校生、大学生に対し、交通費相当分の支援を行い、教育ボランティアの育成確保を図る。
取組実績	・学生ボランティア登録者 東京農大生 97 名、網走南ヶ丘高校生 13 名、網走桂陽高校生 1 名 合計 111 名 ・支援内容 報償費として 1,000 円/回を支援する。 ・事業実績 延 188 名（決算額 188 千円）
成 果	事業開始から 2 年目を迎えた令和 7 年度は、登録者数は 111 名と前年登録者数を 10 名下回る結果となったが、平日にボランティアが可能な大学生の登録者は令和 6 年度の 78 名に対し、令和 7 年度は 97 名と 19 名の増となり、学生ボランティア確保につながっている。
課 題	自主的にボランティア参加をしてくれる学生を継続して確保するには、経済な支援だけでなく、参加から得られる達成感や学習要素をいかに作っていくかが課題である。
今後の方向性	高校生、大学生のボランティア参加を通じて、長期的な人づくり、地域づくりにつなげていく仕組みを作っていく。

3 家庭教育

(1) 家庭教育の支援

項 目	家庭教育学級、家庭教育フォーラムの開催（継続）
目 的	家庭生活や地域課題に基づいた講座を開設し、豊かな市民生活、家庭教育環境づくりを支援する。
取組実績	■家庭教育学級 ・市街区小学校（当番校：中央小学校）11月30日（日） 「親子で楽しむ蕎麦打ち体験」 講師：柴田やよい 氏 参加者 32 名 ・郊外地区（当番校：呼人小中学校）10月8日（水） 「アクティブ車イス体験講座」 講師：（一社）SPICE.F 代表理事 狩野 亮 氏 参加者 35 名 ■家庭教育フォーラム兼網走市父母と先生の会連合会研究大会 ・開催日 10月4日（土）9:30～11:30 ・会 場 エコーセンター2000 エコーホール ・参加者 140 名 ・講 演 「知っているのと差がつくお金の話」 ・講 師 税理士ユーチューバー・(株)ArtBiz 代表取締役 大河内 薫 氏
成 果	家庭教育の推進を図るため、家庭教育学級の当番校を決め、市内・郊外で実施するとともに、PTA（父母と先生の会）連合会と連携し、家庭教育フォーラムを開催した。
課 題	学校や父母と先生の会連合会などとの連携による事業のため、取り組む過程の中で事業目的についての共通理解を得ることが必要である。
今後の方向性	子育て・家庭教育に関する講座は、趣旨を充分伝え、父母と先生の会連合会などの市民の声を反映させたプログラムの編成を行いながら実施していく。

項 目	幼児を育てる親の子育て講演会の開催（継続）
目 的	ライフスタイルの多様化、核家族化、少子化の影響により、子どもを育てる環境が変化している中、子育てに迷い、悩みを抱く親が多くなっていることから、幼児期の子育てに精通した講師を招き、情報の提供を行い不安の解消に努める。
取組実績	■保育従事者向け講演会 ・開催日 7月15日（火）19:00～20:30 ・講演名 「お話でつながる心と心」 ・講 師 絵本作家 サトシン 氏 ・参加者 37 名 ■保護者向け講演会 ・開催日 7月16日（水）10:00～11:30 ・講演名 「お話でつながる心と心」 ・講 師 絵本作家 サトシン 氏 ・参加者 40 名（託児 17 名）
成 果	子育て支援課と連携し「保育従事者向け講演会」と「保護者向け講演会」との2講演を実施。保護者向け1講演会では、託児も行い受講環境を整えた。
課 題	子育ての不安などを解決できるような講座内容を検討し、より多くの受講者を得るため周知方法や開設方法検討する。
今後の方向性	子育て支援課など関係機関と連携し、幼児教育の環境づくりの充実を図っていく。

(2) 子どもを育む地域力育成の支援

項 目	網走市子ども会育成連合会への支援（継続）
目 的	市内の子ども会活動を支援し、地域が子どもを見守り育む取組を支援する。
取組実績	実施主体：網走市子ども会育成連合会 ■ボランティア研修会の開催 ・開 催 日 6 月 15 日（日） ・会 場 エコーセンター2000 ・参 加 者 39 名（小学生 11 名、子ども会 3 名、学生 HERO'S12 名、農大生 14 名） ■サマーデイキャンプ兼育成者研修会の開催 ・開 催 日 8 月 30 日（土） ・会 場 道立オホーツク公園てんとらんど ・内 容 レクレーション、モルック体験他 ・参 加 者 48 名（子ども 26 名、ボランティア・スタッフ 7 名、農大生 15 名） ■あばしり市子ども大会 2025 の開催 ・開 催 日 12 月 7 日（日） ・会 場 北コミュニティセンター ・内 容 チャレラン大会、ラジオ体操表彰など ・参 加 者 94 名（子ども 61 名、子ども会 8 名、農大生 25 名） ■その他 ・ラジオ体操カードの配布、斜網地区子ども会育成連絡協議会活動への参加
成 果	子ども会連合会の活動として定着している「サマーキャンプ」、「網走市子ども大会」などの開催を通じて、地域が子どもを見守り育む活動を実施した。
課 題	少子化や町内会活動の停滞などにより、市内各地域の子ども会活動が休止または廃止となっており、子ども会連合会としての役割や機能を見直す時期に来ている。
今後の方向性	地域が子どもを見守り育む活動を支援し、子どもの健全育成に取り組んでいく。

項 目	豊かな心を育てる活動推進会議事業の支援（継続）
目 的	子どもたちの豊かな心を育てるための啓発活動を行う「豊かな心を育てる活動推進会議」が行う事業を支援する。
取組実績	実施主体：網走市豊かな心を育てる活動推進会議 ■豊かな心を育てる小中学生の意見発表会 「あいさつ」「親切」「環境・美化」「命の大切さ」「勇気」「やり抜く力」などをテーマに、自分の考えや体験したことを発表する機会を設置 ・開催日 1 月 31 日（土）13:30～15:00 ・会 場 エコーセンター エコーホール ・参加者 市内小中学校代表 児童生徒 15 名（小学生 9 名、中学生 6 名） ・来場者 165 名 ■啓発活動、標語募集 「あいさつ」「親切」「環境・美化」「命の大切さ」「家族」「働くこと」の各テーマから選んだ標語を募集し、入選 30 作品を活用したカレンダーを作成 ・応募数：1,249 点 内オンライン応募数 1,071 点（85.7%） ・カレンダー作成：2,000 枚（市内関係機関に配布）
成 果	意見発表会の開催を通じて、少年の主張オホーツク管内大会への網走市代表者の選考を行うほか、標語の募集・周知を通じて子どもたちの豊かな心の育成に繋げて行く取り組みを支援した。
課 題	小学校低学年の標語入選者数が少ないといった課題があることから、募集方法・入選者選考方法などに工夫を図る必要がある。
今後の方向性	青少年の健全育成を推進するために必要な取組であり、今後も推進していく。

4 芸術文化

(1) 文化活動の促進

項 目	オホーツク・アートセミナー事業の支援（継続）
目 的	市民に音楽や美術に関する質の高い優れた表現技法を専門講師から学ぶ機会を提供し、市民の芸術文化活動の活性化を図る。
取組実績	実施主体：オホーツク・アートセミナー実行委員会 ■音楽セミナー（8団体14回開催） 網走小（8/28～30）、第一中（3/29）、第二中（3/22～23）、第三中（7/6、12/13、1/11、1/25）、桂陽高（7/21、7/31）南高（6/6、6/30、7/6、7/20）、 網走（7/30～31）、合唱団あばしり（9/22） ■美術セミナー（2講座4回開催） 描画講座（油彩講座）（2/21、22） 工芸講座（シルクスクリーン）（3/28、29）
成 果	令和7年度は、市内小中高の吹奏楽部、音楽・合唱団で音楽セミナーを計14回開催した他、美術館にて4回の美術セミナーを開催し、文化芸術の振興を図った。
課 題	音楽、美術などの分野で優れた講師を市内の文化芸術団体へ派遣し、文化芸術の振興を図る必要がある。
今後の方向性	オホーツク・アートセミナー実行委員会への事業支援を通じて、引き続き市内文化団体の活性化を推進する取り組みを継続する。

項 目	文化団体の活動支援（継続）
目 的	市内文化団体で構成される NPO 法人網走市文化連盟が、広く市民を対象に行う郷土文化振興事業に対して支援を行うことにより、市民文化の振興・発展を図る。
取組実績	実施主体：特定非営利活動法人網走市文化連盟 ■第60回網走芸術祭（9～11月） ①市民華道展（9/12） ②市民盆栽展（9/25～28） ③市民書道・絵画・写真展（10/21～28） ④あばしり子ども創作作品展（10/31～11/9） ⑤市民舞台芸能発表会（10/11） ⑥市民音楽祭（10/12） ⑦呈茶サービス（11/3） ⑧あばしり映画祭（11/8～9） ■文化功労者顕彰式（11/3） ・網走芸術賞：金子美智子（書道：網走市書道連盟会長） ■市民文化交流事業 ・国際交流事業（蔚山子ども作品展 10/31～11/9） ・蔚山広域市南区文化院一行受入（2/7）
成 果	市内文化団体の発表の場となる展示会、舞台発表会などを開催し、市民の文化活動の振興を図ったほか、永年、文化活動に従事し、文化振興に貢献した市民の表彰を実施した。
課 題	文化団体の高齢化、文化連盟事業の持続性についての課題があり、文化連盟内で議論協議が行われている。
今後の方向性	市民の文化活動の振興・発展のため、文化連盟の意向を確認し、必要な支援を今後も継続していく。

項 目	文化芸術振興褒奨金事業（継続）
目 的	文化芸術分野において、全国大会等に出場する個人・団体等へ支援を行い、文化芸術の振興を図る。
取組実績	【令和 7 年度実績】（2 団体） ■網走南ヶ丘高等学校・放送局（報奨額 135,000 円） ・第 72 回NHK杯全国高等学校放送コンテスト兼校内放送活動研究集会出場 7/21～24（東京都渋谷区）生徒 8 名、顧問 1 名（計 9 名） ■網走南ヶ丘高等学校・演劇部（褒章金額 270,000 円） ・第 71 回全国高等学校演劇大会兼第 49 回全国高等学校総合文化祭 7/26～28（香川県高松市）生徒 23 名、顧問 2 名（計 25 名）
成 果	市内高等学校放送局及び演劇部の全国大会出場に際し、報奨金を支出しその活動の支援を行った。
課 題	「網走市スポーツ報奨金制度」と交付内容を等しくするため検討を行う。
今後の方向性	文化芸術活動の意欲向上のため、報奨金制度について広く広報PRを図る。

項 目	芸術文化合宿事業への支援（継続）
目 的	芸術文化団体の合宿受け入れを行い、市民との交流推進と芸術文化の向上を目指す「芸術文化合宿実行委員会」が行う事業を支援し、芸術文化活動の拠点となる体制づくりを進める。
取組実績	実施主体：網走市芸術文化合宿実行委員会 【令和 7 年度受入団体】 ①札幌大谷大学芸術学部美術学科（7/4～6）受入人数 16 名（延 32 泊） 合宿成果展示会（12/2～8）エコーセンター展示室 ②日本学生写真部連盟（全国各地）（8/26～29）受入人数 20 名（延 60 泊） 合宿成果展示会（8/29～9/4）エコーセンター展示室 ③旭川明成高校吹奏楽部（9/13～15）受入人数 78 名（延 156 泊） 市民向け演奏会（9/14）市民会館大ホール（入場者数 842 名） 市内中高生のワークショップ、バンドクリニック（9/15）市民会館 ④山中能舞台（大阪市）（1/4～7）受入人数 2 名（延 6 泊） 小中学生対象能楽ワークショップ（1/7）エコーセンター交流室 ⑤北海道文教大学国際交流センター（3/5～7）受入人数 10 名（延 20 泊） エコーセンター登録サークルとの交流会（3/5）向陽ヶ丘住民センター 市内小学校訪問（3/6）西小学校 国際交流事業参加（3/7）エコーセンター大会議室（参加者 14 名） 【令和 7 年度合宿誘致PR活動】 ①道内プロモーション（12/17～19）北海道科学大学、札幌大谷大学、北海道文教大学 ②関東圏プロモーション（2/9～11）東海大学、日本学生写真部連盟他 ③関西圏プロモーション（3/24～26）阪南大学、追手門学院大学、大坂工業大学、 京都精華大学
成 果	令和 7 年度は、旭川明成高校吹奏楽部が初めて網走市にて合宿を実施した他、札幌大谷大学、日本学生写真部連盟など常連団体を含め、5 団体 129 名（延宿泊数 278 泊）の実績があった。
課 題	総合戦略の重要業績評価指標（KPI）において、芸術文化合宿の受入人数の目標値は年間 300 人としていることから、より多くの団体及び人数の受入を継続しなければならないが、網走市が芸術文化合宿の受入を行っているということを知らない団体が多いことから、今後も地道なプロモーション活動を通じたPR活動が必要である。
今後の方向性	プロモーション活動を継続的にを行い、芸術文化団体の合宿誘致につなげる取り組みを行うとともに、支援体制の整備や網走の魅力発信に取り組んでいく。

項 目	全国大学写真競技会の開催支援（新規）
目 的	全国の大学写真部による風景写真日本一を決定する競技会の開催を支援し、写真の聖地化や写真文化の機運醸成を図るとともに、関係人口の創出につなげる。
取組実績	実施団体：フォトマッチインターカレッジ全国大会実行委員会 ■フォトマッチインターカレッジ全国大会 2025in 網走 ・ 共 催：網走市、網走市教育委員会、網走市芸術文化合宿実行委員会、一般社団法人日本学生写真部連盟 ・ 大会期間：8/21～24 ・ 会 場：【撮影】市内全域、【競技会】エコーセンター20000 大会議室 ・ 出場大学：【東日本大会上位2校】千葉工業大学、日本大学 【西日本大会上位2校】甲南大学、同志社大学 【北海道特別参加校】 札幌大学、東京農業大学（各校3名） ・ 競技結果：【優勝】甲南大学、【準優勝】千葉工業大学、【3位】札幌大学 ・ 観戦者数：約100名 ・ 備 考：提出作品の著作権は網走市に帰属
成 果	日本学生写真部連盟の芸術文化合宿受入を機に全国初開催となる写真競技会の開催を通じて、全国の大学生に網走市の地域づくりに対する取り組みを知ってもらう機会となったほか、市民に対して写真文化の振興施策を展開できた。その後、大会観戦をした市民が大きなかぶ応援事業を活用して、写真講習会を企画するなど一定の影響があった。
課 題	令和7年度は全国初開催となったが、大会の継続開催を通じて、地域づくりの更なる振興が必要。そのためには、大会のPRを市民や全国に向け実施していく必要がある。
今後の方向性	大会に協賛してくれる企業と連携し大会のPRを図るとともに、大学生の写真競技を通じた地域づくりの実践を図っていく。

（２）鑑賞機会の充実

項 目	あばしりファミリー劇場の開催支援（継続）
目 的	子どもたちに、質の高い優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供する「あばしりファミリー劇場実行委員会」が行う事業に助成し、子どもたちの舞台芸術に対する関心を高め、感性豊かな人格形成をめざす。
取組実績	実施主体：あばしりファミリー劇場実行委員会 ■「ミュージカルあらしのよるに」（劇団さっぽろ） ・ 開催日時 9月20日（土）14:00～15:30 ・ 会 場 エコーセンター2000 エコーホール ・ 入 場 料 一般500円（4歳以上） ・ 入場者数 286名
成 果	令和7年度は「ミュージカルあらしのよるに」を公演し、普段、網走では見ることのできない鑑賞機会を通じて、親子で舞台芸術を楽しむ場を提供した。
課 題	少子化が進む中で、親子で楽しむことのできる舞台芸術の鑑賞機会を市民実行委員会により企画実施していくことが必要。
今後の方向性	親子で一緒に鑑賞できる数少ない芸術鑑賞事業であり、市民実行委員会で運営方法を検討しながら実施しており、引き続き支援を行う。

項 目	アトリウムロビーコンサートの開催（継続）
目 的	エコーセンター2000 の来館者に気軽な鑑賞機会を提供し、市内の音楽活動家や団体の活動発表の場となるよう、アトリウムロビーを活用したコンサートを開催する。
取組実績	①網走吹奏楽団（4/26）11:30～12:15 聴衆数 80 名 ②オホーツク岳風会網走支部（6/21）11:00～12:00 聴衆数 50 名 ③合唱団あばしり（7/27）11:30～12:20 聴衆数 50 名 ④網走はまなす女性合唱団（9/21）11:30～12:25 聴衆数 60 名
成 果	令和 7 年度は、7 団体によるロビーコンサートが企画され、音楽や合唱などの愛好者の発表機会の場となり、市民にも音楽などに気軽に触れる機会を提供できた。
課 題	ロビーコンサートは、アトリウムロビーでの開催となるが、アトリウムロビーはエコーホールと予約が連動しており、エコーホール利用時は活用できない状況にある。令和 7 年度はエコーホールの週末利用率が高く、秋から冬にかけては、アトリウムロビーの空きがない状況となり、結果として昨年度の実施回数を下回る結果となった。
今後の方向性	音楽愛好家や団体、サークルが気軽に活動成果を発表できるよう情報提供を行う。

項 目	オホーツク・文化交流センター芸術文化事業の実施（継続）
目 的	優れた芸術文化の鑑賞機会を市民に提供するため、市民企画などを取り入れ、オホーツク・文化交流センター主催事業として実施する。
取組実績	①民謡クルセイダーズ「MINYO IS BACK IN TOWN AT ABASHIRI」 ・開催日時 8 月 23 日（土）16:30～18:40 ・会 場 エコーセンター エコーホール ・出 演 者 民謡クルセイダーズ（特別出演：津軽三味線奏者 菅野優斗） ・入 場 料 一般 2,500 円、高校生以下 1,500 円（当日券各 500 円増） ・入場者数 436 名 ・市民協力 ホールボランティア 6 名、 網走で民クルを楽しむ会 15 名（市民企画団体） ②大曲 翔×アリ・リヴネ「ヴァイオリンとピアノで世界を魅了する至高のハーモニー」 ・開催日時 10 月 26 日（日）16:30～18:40 ・会 場 エコーセンター エコーホール ・出 演 者 大曲 翔（ヴァイオリニスト）、アリ・リヴネ（ピアニスト） ・入 場 料 一般 2,000 円、高校生以下 1,000 円（当日券各 500 円増） ・入場者数 261 名 ・市民協力 ホールボランティア 10 名、網走会 7 名（市民協力団体） ③親子クラシック 2025「クラデビ♪赤ちゃんと一緒にクラシックデビュー」 ・開催日時 12 月 5 日（金）19:00～19:45、12 月 6 日（土）10:30～11:30 ・会 場 12/5 エコーセンター アトリウムロビー 12/5 エコーセンター エコーホール ・出 演 者 斉藤祐太（ヴァイオリン）、五十嵐彩子（フルート）、 村上理依（ピアノ） ・入 場 者 269 名（12/5：84 名、12/6：185 名）
成 果	令和 7 年度は、市民企画提案 1 事業を含めた 3 公演を芸術文化事業として実施し、市民に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供することができた。
課 題	市民ニーズの把握を行い、優れた芸術鑑賞の提供を行うため、市民の企画提案を取り入れながら事業の推進を図る。
今後の方向性	ホールボランティアや市民企画団体など、市民との協働により事業運営を図り、優れた芸術鑑賞機会を市民に提供する。

項 目	クラシック音楽鑑賞会事業の支援（拡充）
目 的	郷土網走にふさわしい芸術文化の創造を目指し、クラシック音楽活動の振興を図るとともに、優れたクラシック音楽の鑑賞事業を推進し鑑賞機会の拡充に努め、積極的な音楽活動の促進及び網走市の芸術文化の発展に寄与することを目的とする。
取組実績	実施主体：網走市クラシック音楽鑑賞会実行委員会 ■札幌交響楽団網走公演 ・開催日時 7月12日（土）15:00～16:40 ・開催会場 網走市民会館 大ホール ・出演者 札幌交響楽団（66名：指揮者1名、楽団員65名） ・入場料 無料（往復はがきによる抽選） ・入場者数 913名 ・その他 網走信用金庫創立100周年記念事業協賛を得て実施 ■青少年音楽教室開催 ①オホーツクバンドクリニック（講師：鈴木英史氏）（5/10）参加者150名 ②クラリネット教室（講師：古市悦子氏）（6/7・8）参加者13名 ③札幌交響楽団音楽教室（講師：札幌団員11名）（7/13）参加者82名 ④ヴァイオリン教室（講師：長岡聡希氏）（8/30）参加者6名 ⑤打楽器教室（講師：富田 篤氏）（1/24・25）参加者12名
成 果	令和7年度は、網走信用金庫創立100周年記念事業による寄附金3,000万円の内、1,100万円を活用し、13年振りとなる「札幌交響楽団網走公演」を開催し、多くの市民に優れた芸術鑑賞機会の提供を行った。
課 題	多くの市民が関心をよせる音楽鑑賞機会を提供するには費用を要するが、令和7年度の取り組みのように協賛企業を募るなど、今後の運営を検討することも必要である。
今後の方向性	隔年事業として、優れたアーティストの招聘を通じ、クラシック音楽の魅力を市民に広めていく取り組みを継続する。

（３）美術館の充実

①所蔵作品の展示

項 目	郷土作家「居串佳一」をはじめとする所蔵作品の展示（常設展）（継続）
目 的	居串佳一などの郷土作家や地縁作家、オホーツクに主題を持つ作家などの作品を収集・保存・調査・研究し、地域の芸術文化を次世代に引き継いでいく。
取組実績	常設展 開館日数 281日 観覧者数 高校生以上 5,086人 中学生以下 448人 合計 5,534人
成 果	郷土出身作家や地縁作家の作品を公開することができた。
課 題	新収蔵作家・作品の紹介など、広く広報する必要がある。
今後の方向性	今後も郷土出身作家等の作品収蔵に努め所蔵作品の充実を図り広く郷土作家を紹介していく。

②企画展の開催

項 目	『村上洋一展』の開催（新規）
目 的	道東在住の洋画家・村上陽一作品を紹介する。
取組実績	・会 期 4月12日～5月25日（37日間） ・観覧者数 高校生以上 463人 小中学生以下 60人 合計 523人 ・関連事業 ギャラリーツアー 4月12日 36人 おしゃべり鑑賞会 5月17日 6人
成 果	道東在住の作家作品に多くの観覧者が訪れた。
課 題	特になし。
今後の方向性	今後も、優れた作品を紹介してゆく。

項 目	『藤倉英幸展』の開催（新規）
目 的	「JRhokkaido」の表紙や六花亭などのデザインを担当する藤倉英幸を紹介する。
取組実績	・会 期 8月2日～9月7日（33日間） ・観覧者数 高校生以上 573人 小中学生以下 76人 合計 649人 ・関連事業 講演会 8月2日 17人 貼り絵講座 8月3日 6人
成 果	道内風景の、貼り絵の原画を紹介できた。
課 題	特になし。
今後の方向性	優れた道内作家の作品をこれからも紹介していきたい。

項 目	SOMPO 美術館 - 『東郷青児・ジョルジュ・ルオー』（新規）
目 的	網走信用金庫創立 100 年の記念行事の一つとして著名な作家を紹介する。
取組実績	・会 期 9月26日～11月9日（39日間） ・観覧者数 高校生以上 2,506人 小中学生以下 195人 合計 2,701人 ・関連事業 ギャラリーツアー 9月26日 74人
成 果	国際的な著名作家作品に多くの観覧者が訪れた。
課 題	大きな展覧会の開催には、警備、設備、予算が必要である。
今後の方向性	今後も優れた現代作家の作品について紹介していく。

項 目	オホーツク管内高校生美術展（新規）
目 的	若手アーティスト作品展示事業として、管内高校生美術部員の作品を展示する。
取組実績	・会 期 12月4日～12月21日（16日間） ・観覧者数 高校生以上 121人 小中学生以下 20人 合計 141人
成 果	管内高校生美術の現在を紹介できた。
課 題	高校生の美術は、高文連しか発表の機会がない。
今後の方向性	今後も美術を愛する次世代を応援していく。

項 目	『中川裕孝展』（新規）
目 的	デニムで表現するテキスタイル作家、中川裕孝を紹介する。
取組実績	・会 期 1月25日～3月22日（47日間） ・観覧者数 高校生以上 636人 小中学生以下 41人 合計 677人 ・関連事業 ギャラリートーク 1月25日 20人 おしゃべり鑑賞会 2月8日 6人
成 果	テキスタイルデザインと作家表現への理解が深まった。
課 題	特になし。
今後の方向性	今後も優れた現代作家の作品について紹介していく。

③移動展の開催

項 目	第 66 回北海道書道展 網走移動展の開催（継続）
目 的	第 66 回北海道書道展の移動展を開催し、書道作品を広く紹介することで、『書写』から芸術表現での『書』への移行を紹介する。
取組実績	・会 期 7月8日～7月27日（18日間） ・観覧者数 高校生以上 205人 小中学生以下 12人 合計 217人 ・関連事業 解説会・揮毫会 7月13日 42人
成 果	道内最大級の書による公募展作品を紹介できた。
課 題	日本の毛筆文化が日常的ではなくなり衰退することを危惧している。
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。

項 目	第 72 回写真道展 網走移動展（継続）
目 的	北海道内の写真公募展である『第 72 回写真道展』移動展を開催し、写真作品の鑑賞機会を提供する。
取組実績	・会 期 12月27日～1月18日（15日間） ・観覧者数 高校生以上 134人 小中学生以下 1人 合計 135人 ・関連事業 解説会・佐々木砂宗さん 12月28日 8人
成 果	道内最大級の写真公募展を紹介できた。
課 題	市内から写真道展への出品が少なく、鑑賞者が伸び悩む状況である。
今後の方向性	写真の普及のため継続して、移動展を開催していく。

④講座・教室の実施

項 目	オホーツク・アートセミナー（美術部門）の支援（継続）		
目 的	オホーツク・アートセミナーの企画・運営に協力し、美術への関心を高めるとともに、技術の向上を図る。		
取組実績	油彩画講座（油彩画の制作）	2月21日・22日	参加者 20名
	版画講座（シルクスクリーン）	3月28日・29日	参加者 14名
成 果	油彩画の技法を体験し制作できた。 写真製版シルクスクリーンを体験できた。		
課 題	特になし		
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。		

項 目	講座・ワークショップ（新規）		
目 的	様々な技法を体験するワークショップ。		
取組実績	Tシャツに絵を描こう	5月3・4日	参加者 22人
	貼り絵講座	8月3日	参加者 12人
	食品サンプル講座	8月9日・10日	参加者 31人
	デッサン講座	8月16日・17日	参加者 8人
	段ボールでガチャマシ	8月23日・24日	参加者 32人
	石膏でアロマストーン	8月30日・31日	参加者 16人
	簡単アクリル画講座	11月16日・22日	参加者 15人
			合計 136人
成 果	参加者は様々な技法を体験することができた。		
課 題	特になし		
今後の方向性	展示作品の理解や、創作活動を促すために継続していく。		

項 目	出張美術館の実施（継続）		
目 的	学校等に出張して作品を展示、鑑賞してもらうことで、児童・生徒・学生の美術に対する興味・関心の高揚を目指す。		
取組実績	第五中学校	10分鑑賞 5/9、6/12、7/11、10/9、12/5、2/25	83人
	第四中学校	7月1日～7月11日（9日間）	68人
	呼人小中学校	8月20日～8月28日（7日間）	40人
	第一中学校	8月29日～9月5日（6日間）	2,29人
	第二中学校	10月1日～10月8日（6日間）	167人
	網走小学校	10月9日～10月16日（5日間）	243人
	東小学校	10月17日～10月24日（6日間）	69人
	第三中学校	10月27日～11月6日（7日間）	320人
	第五中学校	11月7日～11月18日（8日間）	52人
	中央小学校	11月19日～11月26日（5日間）	160人
	白鳥台小学校	11月27日～12月4日（6日間）	54人
	西小学校	12月5日～12月12日（6日間）	110人
	女満別中学校	1月27日～2月3日（6日間）	164人
			合計 1,759人
成 果	多くの児童生徒等に美術鑑賞の機会を提供できた。		
課 題	今後も、実施時期・期間について、学校との調整を充分に行う必要がある。		
今後の方向性	今後も継続して多くの学校で開催していく。		

項 目	研修等の受入（継続）
目 的	職場体験や校外学習の受入を行い、美術館を身近に感じてもらう機会を設け、美術活動の普及拡大を目指す。
取組実績	・ 講座 高校生オープン講座 通年延べ 76 名 ・ 見学 東京農業大学、クリオネ学級、札幌大谷大学、女満別中学校、退職者の会、第二中学校、網走幼稚園、呼人中学校、第五中学校、若葉幼稚園など ・ 博物館実習 11 月 25 日～30 日、12 月 3 日・4 日（8 日間） 延べ 42 名 ・ 職場体験 第三中学校職場体験 9 月 12 日 6 名
成 果	多くの鑑賞者、研修の受入を行い、美術館を広く知ってもらう機会となった。
課 題	特になし。
今後の方向性	今後も鑑賞学習や職場体験などを積極的に受入していく。

（４）博物館の充実

項 目	特別企画展「平成カルチャー展」の開催（新規）
目 的	郷土の歴史を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・ 会 期：令和 8 年 2 月 1 日～3 月 31 日 ・ 入場者：2,647 名 ・ 関連事業：展示説明会 2 月 15 日 参加者：28 名
成 果	現代へと続く平成時代の文化の特徴と網走の街の様子を紹介できた。
課 題	小中学生の見学機会の増加のため、学校との連携が必要
今後の方向性	網走の歩みをテーマとして開催し、市民が郷土の歴史を見つめ直す機会とする。

項 目	剥製標本作製（継続）
目 的	網走の自然資料を通して、郷土を身近に学び親しむ場を提供する。
取組実績	・ 剥製標本作製 アマエビ、ボタンエビ、ホッカイエビの剥製 3 点（博物館展示）
成 果	実物の自然資料の収集・公開によって、郷土の自然の豊かさを伝えた。
課 題	限られたスペースでの展示方法の研究が課題
今後の方向性	郷土の自然資料の収集・整理及び資料修理等をすすめる。

項 目	特別企画展「網走のヨコエビ展」の開催（新規）
目 的	郷土の自然を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・ 会 期：令和 7 年 8 月 1 日～9 月 30 日 ・ 入場者：2,082 名 ・ 関連事業：ダンゴムシツアー・リベンジ 8 月 9 日 参加者：22 名 展示説明会 8 月 17 日 参加者：14 名
成 果	網走で生息が確認されているエビなどの甲殻類の生態等について紹介できた。
課 題	特別企画展と関連した観察会の開催など、誘客機会の充実が必要
今後の方向性	網走の自然に触れる機会として、テーマを変えながら開催していく。

項 目	観察会・学習会等の開催（継続）
目 的	歴史と自然の学びを通して、郷土への理解と親しみを深める。
取組実績	・観察会・学習会 参加者：764 名 19 回（歴史 5 回、動植物 7 回、天文 7 回） ・子ども体験教室 参加者： 68 名 2 回 （5 月 24 日：飛球ふりこおもちゃ 参加者：41 名、 5 月 31 日：エビカニ観察会 参加者：27 名） ・民俗資料収蔵展示施設の一般開放：見学者：187 名（8/22～24、8/29～31）
成 果	郷土の自然と歴史の豊かさを具体的に伝えることができた。
課 題	開催に係るテーマ及び時期等の研究が重要
今後の 方向性	網走の自然と歴史を身近に学べる機会として、一層の P R を進めていく。

5 文化財

(1) モヨロ貝塚の保護と活用

項 目	モヨロ貝塚PR事業（継続）
目 的	モヨロ文化のPRを図り、街のシンボリックイメージとして定着させる。
取組実績	・広報活動の充実（SNS等デジタル媒体での案内、新聞・雑誌での案内、チラシ配布） ・案内看板設置（道路等10箇所、空港電照看板）及び、出土品展示（市内外7箇所） ・モヨロカレッジの開講（モヨロ文化の講義と体験学習の全4講座） 参加者計：368名 - 講座1 「モヨロ人の土器づくり体験学習」 8月2日 参加者：17名 - 講座2 「網走・常呂のオホーツク文化遺跡1をめぐる」 9月6日 参加者：26名 - 講座3 「モヨロまつり」 9月20日 参加者：259名 - 講座4 「モヨロ文化市民講座」 12月7日 参加者：66名 テーマ：根室のオホーツク文化研究とモヨロ貝塚 講 師：猪熊 樹人氏（根室市歴史と自然の資料館学芸員）
成 果	モヨロカレッジとしてモヨロ文化を総合的に学ぶ機会を提供できた。
課 題	各種の広報活動の検討と観光機関等との一層の連携が必要
今後の方向性	多様な広報活動を一層すすめ、幅広い年代へのモヨロ文化の周知を図っていく。

項 目	オホーツク遺跡街道づくり推進事業（新規）
目 的	モヨロ人体験できる観光プログラムの充実を図り、来訪者の満足度の向上をめざす。
取組実績	・土器づくり体験講座の開催 春の土器づくり 5/4、夏の土器づくり 7/25、秋の土器づくり 10/11：90名 ・学校等団体客への体験講座の開設 小中学校 5校：102名、一般 2団体：33名、野焼き体験 5回：22名 計 157名 ・旅行商品開発モニターツアーでの指導・案内 土器づくり体験の指導及び、モヨロ貝塚館の案内 10/24：20名 ・縄文雪まつり会場でのモヨロPRブースの開設（札幌雪まつり開催中の2/8～2/9） ・モヨロ土器の語り部・お手軽土器体験コーナーの開設（5月～3月、モヨロ貝塚館）
成 果	モヨロ貝塚を中心としたオホーツク文化の存在と特徴をPRすることができた。
課 題	観光機関等との連携を深め、広報活動の一層の充実が重要
今後の方向性	観光客への広報とともに、地元の幅広い年代へのモヨロ文化の周知を図っていく。

項 目	博物館網走監獄耐震対策補助金（新規）
目 的	博物館網走監獄保存財団所有の国重要文化財建造物の耐震対策工事を支援する。
取組実績	・五翼放射状舎房及び、中央見張り所の耐震対策工事の一部費用の補助 ・耐震対策工事：R6～R11の6ヵ年で実施予定
成 果	郷土の重要文化財建造物の保全事業の支援を図った。
課 題	国・道及び博物館網走監獄との連絡調整を密に図ることが必要
今後の方向性	網走の誇る重要文化財である網走監獄建造物の保全事業の支援を一層進める。

6 スポーツ

(1) スポーツ施設の整備、利用促進

項 目	総合運動公園内の屋内体育施設を対象とした基本構想を策定（新規）
目 的	網走運動公園及び網走スポーツ・トレーニングフィールドにおいて、多くのスポーツ施設で老朽化が深刻な課題となっている。各施設の現状把握と関係機関との協議を重ね将来的な維持・統合等を見据えた体系的な「基本構想」を策定し効果的かつ持続可能なスポーツ環境を構築する。
取組実績	・「網走運動公園再整備構想検討協議会」の設立 ・「同検討協議会の開催」（計3回） ・「網走運動公園再整備構想」の策定完了
成 果	基本構想の策定により、将来的な施設整備の方向性が明確になり、老朽化対策や施設集約に向けた、計画的なスポーツ環境づくりを進めるための方針が整備された。
課 題	基本構想を具現化するため「具体的な基本計画」および「実施設計」へ移行するためのスケジュールの検討が必要。
今後の方向性	基本構想に基づき、機能や役割が重複し、老朽化が著しい「すぱーく網走」と「オホーツクドーム」の統合を推進する。財政状況や利用者の要望を十分に踏まえ、段階的かつ計画的に事業を推進し、新たな「新屋内運動施設」の整備、既設の除却を図る。

項 目	総合体育館のボイラー修繕（拡充）
目 的	経年劣化による故障のリスクが顕著化しているボイラー設備を適切に修繕し、利用者が安全・快適に利用できる施設整備を図る。
取組実績	ボイラー設備の煙室耐火材の補強修繕工事の実施。
成 果	設備の安全利用が維持され、健全な施設運営が確保された。
課 題	施設および付帯設備の老朽化が全体的に進んでおり、ボイラー以外の基幹設備についても継続的な点検と計画的な更新の検討が必要。
今後の方向性	日常点検により、設備の状況を把握し、トラブルを未然に防ぐため計画的な整備を図る。

項 目	陸上競技場第3種公認のための整備（新規）
目 的	日本陸上競技連盟の第3種公認検定の継続更新に必要な施設・設備等の整備を行い、良好なスポーツ施設の環境維持を図る
取組実績	・ウレタン切削・オーバーレイ工事 ・棒高跳び助走路及び走り幅跳び踏切板白線引工事 ・走路縁石交換工事 ・表示タイル工事 ・一部トップコート塗布工事 ・砂場砂補充及び柵補修工事 ・走り幅跳び等走路ウレタン蓋補修工事 ・砲丸落下域整備 ・砲丸・円盤サークル補修工事
成 果	公認要件に適合する施設整備により、良好な競技・練習環境が維持され、継続した公式大会の開催や児童や学生が安全に利用できる環境が確保された。
課 題	公認資格を維持するための定期的なメンテナンスが必要である。特にトラックにおいては経年による摩耗が進行しているため、全面改修が必要。
今後の方向性	公認資格の維持。日常点検により、設備の状況を把握し競技団体の要望等を踏まえ、計画的な整備を図る。

項 目	トレーニング器具の点検・整備（継続）
目 的	トレーニング器具の定期的な点検・整備を行い、経年劣化による事故を未然に防ぎ、利用者が安全かつ効果的に活用できる環境を維持する。
取組実績	専門業者による各種器具の点検、消耗品の交換、保守整備。
成 果	点検・整備により、トレーニング器具の良好なコンディションが保たれ、利用時における安全性が確保された。
課 題	一部の器具で経年劣化による故障や修理用パーツの製造終了が見られる。そのため、安全確保や健全な施設運営に向けた、計画的な器具更新の検討。
今後の方向性	トレーニング器具の状況、利用者の要望等を踏まえ、引き続き安心安全な施設運営を推進するため計画的な点検・更新を図る。

項 目	スポーツ・トレーニングフィールドの天文台修繕（拡充）
目 的	天文台設備を適切に修繕し、利用者が大型望遠鏡による天体観測を身近に体験できる環境を維持し、有効的な学びの場として活用を推進する。
取組実績	天文台のドーム開閉スリット部の修繕工事。
成 果	設備の修繕により、大型望遠鏡を適切な状況で保全できる良好な施設環境の維持が確保された。
課 題	天文台を含む施設全体の経年劣化が進んでおり、計画的な補修が必要。
今後の方向性	日常点検により設備の状況を把握し、トラブルを未然に防ぐために計画的な整備を図る。

項 目	市民健康プール整備事業（拡充）
目 的	適切な改修・修繕を実施し、経年劣化による設備故障や機器損傷のリスクを低減させ、健全な施設運営により利用者が安心・快適、かつ大会等で支障なく利用できる良好なスポーツ施設の環境維持を図る。
取組実績	・暖房系統インバータ設置 ・床暖制御バルブ交換 ・競泳用自動審判計時装置タッチセンサー交換
成 果	暖房および床暖房系統の整備により適切な制御・設備の機能が回復した。また大会用計時装置の不具合も改善し、健全な施設運営が確保された。
課 題	配管内の錆の発生など、プール特有の環境下における基幹設備の経年劣化に対して、今後も継続的な点検と計画的な更新が必要。
今後の方向性	日常点検により設備の状況を把握し、トラブルを未然に防ぐために計画的な整備を図る。

(2) スポーツ活動の促進

項 目	各種スポーツ教室の開催（継続）
目 的	市民が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	・市民ランニング教室 6名 4日間 延 19名 ・市民バドミントン教室（秋） 9名 6日間 延 43名 ・市民スキー教室 50名 4日間 延 165名 ・冬休みスケート教室 22名 4日間 延 74名 ・初心者スノーボード教室 17名 4日間 延 47名
成 果	子どもから大人まで各教室とも基本技術の習得と競技の楽しさを体験することができ る教室として好評を得ている。
課 題	参加者が少ない種目については、そのあり方についての検討が必要である。
今後の 方向性	市民ニーズに対応するため、種目・対象・日程を参加しやすい環境にして参加者増に 努める。

項 目	いきいき健康体力づくり教室の開催（継続）
目 的	高齢者が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	市内 60 歳以上の方を対象に毎月 1 教室を開催（教室によって実施回数が異なる） 参加者数 20 名 13 回実施 延 147 名
成 果	高齢者の体力維持、健康づくりという点で毎年参加者から好評を得ている。
課 題	高齢者が、安全で理解しやすく、一年を通して継続して参加できる教室内容とするこ とが必要である。
今後の 方向性	スポーツ推進委員と新種目の検討、運営のノウハウを研究しながら継続する。

項 目	オホーツク歩くスキーの集いの開催（継続）
目 的	市民が気軽に楽しめる冬のスポーツ行事の開催
取組実績	・開催日 令和 8 年 2 月 14 日（土） ・会 場 道立オホーツク公園「てんとらんど」 ・参加者数 48 名
成 果	市民に対して、気軽に取り組める冬季スポーツの普及を図ることができた。
課 題	参加者の増加につなげるため、歩くスキーの普及拡大が必要である。
今後の 方向性	運動不足になりがちな冬季に気軽に取り組むことができるスポーツの普及を図るた め、今後も継続する。

項 目	こどもスポーツチャレンジ事業の開催（継続）
目 的	少年期からスポーツに親しむことにより、体力の向上を図るとともに、普段接するこ とのない子どもたちがスポーツを通じて、協調性を身につけることを目指す。
取組実績	参加者数 57 名 10 回実施 延 377 名
成 果	運動する機会の少ない子どもたちには、継続的に運動するきっかけとなり、参加者 には満足度の高い事業となっている。
課 題	子どもたちのニーズの把握や、情報収集・研修が必要
今後の 方向性	引き続きスポーツ推進委員と新たな種目の導入などについて検討を行い、継続して参 加してもらえるような魅力ある事業としていく。

項 目	「夢の教室」の開催（拡充）
目 的	「夢先生」が自らの体験をもとに「夢をもつことの大切さ」、「仲間と協力することの大切さ」などについて講演と実技を通じて子どもたちに伝える。
取組実績	市内全小中学校 15 校（5 年生。一部の小学校 4～6 年生。中学 2 年生）18 コマ 447 名受講 ※対面開催 ・9 月 2 日 講師「松田 丈志（水泳）」 第五中学校、西小学校＋呼人小学校 ・9 月 3 日 「倉石 佳奈（タッチラグビー）」 中央小学校、東小学校 ・9 月 4 日 「渥美 万奈（ソフトボール）」 第一中学校、西が丘小学校 ・9 月 5 日 「杉山 美紗（アーティスティックスイミング）」 第一中学校、白鳥台小学校 ・12 月 8 日 「高橋 萌木子（陸上短距離）」 網走小学校、第三中学校 ・12 月 9 日 「登坂 匠（キックボクシング）」 第二中学校、第三中学校 ・12 月 10 日 「山下 訓広（サッカー）」 第二中学校、第三中学校＋呼人中学校 ・12 月 11 日 「高島卓久馬（ラグビー）」 潮見小学校、南小学校 ・12 月 12 日 「松本 弥生（水泳）」 潮見小学校、第四中学校
成 果	オリンピック出場選手等を「夢先生」として講師に招き、これまでの歩みや体験談等の話を聞くことにより、子どもたちが自分の夢について考える時間を得ることができた。
課 題	子どもたちの関心を高めるため、著名な講師の派遣について依頼を行っていく。
今後の方向性	平成 28 年度以降、市内全小学校で実施し、令和 7 年度から小学校に加え新たに市内全中学 2 年生を対象に教室を実施している。今後も継続して実施する。

項 目	障がい児・者スポーツ教室の開催（継続）
目 的	障がいのある方が、それぞれの状態に応じたスポーツを行うことにより、活動の場を広げるとともに、身体を動かす喜びを体感してもらい、さらには健康増進・体力向上に繋げていく取組を行う。また、スポーツ大会に出場できる選手の育成を目指す。
取組実績	障がい児・者とその家族等を対象としたスポーツ教室の開催 ※偶数月の夜の部について 2 回目を実施（6 月～2 月） ※初級パラスポーツ指導員の有資格者 11 名（内 R7 資格取得者 7 名）で実施している。 昼の部 12 回実施 参加申込者 27 名 延参加者 69 名 夜の部 17 回実施 参加申込者 15 名 延参加者 168 名
成 果	参加した障がい児・者にとって定期的に運動する機会が増え、参加者及び関係者からは好評価を得ている。
課 題	障がい児・者スポーツの専門的知識を持った指導者の育成
今後の方向性	スポーツ推進委員と教室の内容を研究し、継続して開催していく。 令和 7 年度から参加対象を東オホーツク定住自立圏住民まで拡大して実施している。 引き続き、安全に教室運営を行い、より多くの障がい者に運動機会を提供していく。

項 目	日体大連携スポーツ教室の開催（継続）
目 的	日本体育大学及び日本体育大学附属高等支援学校と連携し、スポーツ選手や指導者を講師として招き、講習会を開催することにより、トップアスリート及び指導者の育成を図る。
取組実績	令和7年11月15日（土）開催 講師：日本体育大学 バドミントン部部長 大東忠司 氏（オリンピック） 内容：バドミントン競技者向けの教室 対象：午前の部 小中学生及び指導者、午後の部 高校生以上の市民及び指導者 参加者数：52名
成 果	アスリート及び指導者の育成が図られた。
課 題	参加者のニーズにあった教室内容について、研究していく必要がある。
今後の方向性	教室内容の充実を図り、継続して開催していく。

（３）活動組織や指導者の育成

項 目	活動組織や指導者の育成（継続）
目 的	スポーツ協会や各種スポーツ団体との連携協力を深め、必要な援助を行うとともに、次代を担う子どもたちの育成支援を行う。
取組実績	・地域やスポーツ団体との連携（継続） スポーツ協会及び加盟団体との連携協力 ・スポーツ指導者養成の支援（継続） ・スポーツ少年団の育成（継続） 登録団体数：25 団体 団員数：506 名 指導者数：139 名
成 果	各団体が積極的にスポーツに取り組むことにより、各種目の競技力向上、団体の充実が図られるとともに、市教委主催のスポーツイベントなども通じ、より良い事業展開が図られた。
課 題	多くの団体が指導者の不足・高齢化の問題を抱えている。
今後の方向性	各団体及び指導者に対する効果的な支援内容を研究しながら、継続して必要な支援を行っていく。

項 目	スポーツ振興褒奨金事業（継続）
目 的	本市に居住し、又は通学している者が予選を経て全道・全国及び国際大会に出場する場合、スポーツ団体又は個人に対する褒奨金を交付することで、本市のスポーツ振興を図る。
取組実績	国際大会 2 件 計 200 千円 全国大会 16 件 計 1,881 千円 全道大会 28 件 計 1,704 千円 合計 3,785 千円
成 果	褒奨金交付は、スポーツ振興に大きな効果があった。
課 題	交付対象となる大会の選定について、広域開催の大会が増加し、全道大会と見なすかどうかの判断に苦慮することが多くなってきたため、検討及び見直しが必要。
今後の方向性	本市におけるスポーツ振興のため褒奨金交付を継続し、競技の普及と競技力向上を図る。令和7年度から交付金額区分を見直し、一人あたりの該当金額を交付することとした。今後も必要に応じて当該事業の要綱を見直しスポーツ振興を図る。

項 目	スポーツ少年団等活動支援事業（拡充）
目 的	スポーツ少年団が全道・全国大会に出場する際の交通費を助成することで、活動経費の負担軽減を図り、子どもたちのスポーツ団体への加入を促進する等、スポーツ少年団活動の充実・活性化を図る。
取組実績	国際大会 4 件 計 778 千円 全国大会 1 件 計 146 千円 全道大会 37 件 計 10,067 千円 合計 10,991 千円
成 果	活動費助成は、スポーツ少年団の活動支援に大きな効果があった。
課 題	学校教育が所管する同様の補助要綱の内容との相違点。 近年の物価や人件費高騰に伴う交通費・宿泊費の高騰のため予算の確保が必要。
今後の方向性	スポーツ少年団におけるスポーツ振興のため助成を継続し、競技の普及と競技力向上を図る。学校教育課所管の網走市立中学校体育文化振興費補助要綱と足並みを揃えるため令和7年度から当該事業の要綱を見直し、対象・金額を拡大するほか、新たに参加費・宿泊費を対象とした。引き続き継続して必要な支援を行っていく。

項 目	日体大屋内直線走路利用促進事業（継続）
目 的	冬季間における陸上競技等のトレーニング施設が不足していることから、日本体育大学附属高等支援学校の屋内走路を活用し、市内のスポーツ団体等の活動の場を広げる。
取組実績	陸上競技 3 団体 利用者 225 名
成 果	天候の影響を受けない屋内走路を利用することにより、冬季間のみならず練習内容の充実が図られた。
課 題	施設所有者である日本体育大学附属高等支援学校との利用調整が必要。
今後の方向性	関係団体等に継続して周知し、更なる利用促進を図る。 引き続き、利用者の利便性向上のために日体大との協議を継続する。

(4) スポーツ合宿や各種大会の誘致

項 目	スポーツ合宿誘致及び受入対策事業（継続）																														
目 的	・各スポーツ協会・連盟・競技団体、及びトップアスリートへの誘致活動を積極的に実施することにより、合宿誘致を図る。 ・国内トップアスリートをはじめ多くの競技者の合宿を受入れることにより、地域のスポーツ振興と活性化を図る。																														
取組実績	【誘致活動】 日本陸上競技連盟、日本ラグビーフットボール協会、ジャパンラグビーリーグワン、日本サッカー協会、関東学生陸上競技連盟、各実業団チームを訪問し、また、各種大会での誘致活動を実施。 【受入実績】 <table><tr><td>ラグビー</td><td>1 団体</td><td>80 名</td><td>延</td><td>960 名</td></tr><tr><td>陸上競技</td><td>43 団体</td><td>734 名</td><td>延</td><td>5,499 名</td></tr><tr><td>サッカー</td><td>3 団体</td><td>108 名</td><td>延</td><td>672 名</td></tr><tr><td>スケート</td><td>1 団体</td><td>20 名</td><td>延</td><td>200 名</td></tr><tr><td>その他</td><td>12 団体</td><td>73 名</td><td>延</td><td>409 名</td></tr><tr><td>計</td><td>60 団体</td><td>1,015 名</td><td>延</td><td>7,740 名</td></tr></table>	ラグビー	1 団体	80 名	延	960 名	陸上競技	43 団体	734 名	延	5,499 名	サッカー	3 団体	108 名	延	672 名	スケート	1 団体	20 名	延	200 名	その他	12 団体	73 名	延	409 名	計	60 団体	1,015 名	延	7,740 名
ラグビー	1 団体	80 名	延	960 名																											
陸上競技	43 団体	734 名	延	5,499 名																											
サッカー	3 団体	108 名	延	672 名																											
スケート	1 団体	20 名	延	200 名																											
その他	12 団体	73 名	延	409 名																											
計	60 団体	1,015 名	延	7,740 名																											
成 果	・陸上競技長距離を中心に合宿が行われた。 ・合宿人数は前年度に比べ4団体増及び104名増加し、当市で合宿を実施したチームが好成績を収めている。 ・アスリートが網走合宿を行うことにより、スポーツ振興と地域の活性化が図られた。																														
課 題	毎年受け入れ人数に多少の増減があるため、安定した合宿者の誘致が課題																														
今後の方向性	引き続きより多くのスポーツ合宿の誘致活動に努める。既存のチームへの誘致活動のほか、2026-27 シーズンから秋春制に移行するサッカーJリーグチームの視察受け入れや誘致活動を積極的に行う。																														

項 目	全国・全道大会の開催支援（継続）
目 的	全国・全道大会開催を支援することにより、大会の円滑な運営を図るとともに、各種目の競技力向上と普及、さらには地域の活性化を図る。
取組実績	・ホクレン・ディスタンスチャレンジ網走大会（継続） ・関東学生網走夏季記録挑戦協議会（継続） ・北海道学生野球春季・秋季リーグ戦（継続） ・第79回国民スポーツ大会ローイング競技北海道ブロック予選会少年の部（新規） ・北海道知事杯 第25回北海道軟式野球選抜選手権大会（新規） ・第67回網走地方剣道大会（継続） ・男子78回・女子41回北海道高等学校駅伝競走大会 兼男子76回・女子37回全国高等学校駅伝競走大会北海道予選会（新規） ・第77回北海道都市対抗柔道大会（新規） ・第11回道東ジュニア室内水泳競技大会（継続） ・第43回網走オープンヨットレース兼北海道シングルハンダーシリーズ戦大会（継続） ・JLCA2025 レーザー秋の北海道選手権大会（継続）
成 果	開催された競技ではレベルの高い大会が行われ、競技力の向上と各団体の運営能力の向上が図られるとともに、地域の活性化が図られた。
課 題	大会開催の支援にあたって、事前に大会規模の把握が必要なこと、また、大会数・規模が毎年変動することへの対応。
今後の方向性	地域の競技力向上と活性化を図るため、今後も支援をしていく。

7 国際化対応

(1) 国際化に対応した教育や人材の育成

項 目	英会話指導員の語学指導（継続）
目 的	幼少期（保育園・幼稚園・小学校）から生の英会話に触れることで、外国語への関心を高め、国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	・保育園・幼稚園・小学校での英会話指導 小学校： 9校 677時間00分 幼稚園： 5園 68時間30分 一般・サークル支援 22時間 合計 767時間30分 ・英会話指導員：シェイン・ラヤソン（カナダ）平成20年8月～
成 果	英会話指導は、教員と意見交換を行い幼児から小学6年生までの段階的な指導要領を作成したことにより、発達段階に応じた系統的な指導が可能になった。
課 題	各小学校、幼稚園、保育園での外国語活動への対応について、学校などの関係機関と連携しながら調整を図る必要がある。
今後の方向性	小学校の外国語教育の必修化を踏まえ、子どもたちの英語力を高め、国際理解を深める有効な事業であり、引き続き取り組んでいく。

項 目	国際理解体験事業（継続）
目 的	幼少期から生の外国語に触れたり、外国の伝統的な行事や遊びを体験することにより、国際感覚をもった人材を育成する。また、外国文化にふれることにより、世界に目を向け国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	■世界を旅しよう！～網走で外国を体験～ ・開催日時 3月7日（土）10:00～12:00 ・会 場 エコーセンター 大会議室 ・参加者 14名（市内小学生） ・指導者 北海道文教大学国際交流センター（留学生・学生等10名） スリランカ人3名、中国人3名、シンガポール人1名、韓国人1名、日本人2名（支援学大学生、教員） ・内 容 スリランカ、中国、シンガポール、韓国の文化や食などを座学やゲームを通じて体験学習。
成 果	令和7年度は、北海道文教大学国際交流センターの留学生を講師に、留学生の出身国の自然環境や文化などを直接外国人から学ぶ国際理解体験の機会を創出した。
課 題	「世界を旅しよう！」については、体験学習指導ができる人材確保が課題となっていることから、連携協定を締結する大学との連携や在住外国人の市民講師の確保など、多角的に検討していく。
今後の方向性	子どもたちの国際感覚を育成するために有効な事業であり、参加希望も多いことから、引き続き取り組みを推進していく。

項 目	多文化共生推進事業（継続）
目 的	在住外国人を対象に、社会教育事業を提供し、網走の文化や魅力を体感してもらいとともに、市民との交流を通じて、互いの文化を認め合い、在住外国人も市民として様々な活動に参加し、地域づくりにも参画できるような環境づくりを進める。
取組実績	■インターナショナルフェスタ in ABASHIRI 2025（協力：JICA） ・開催日時 7月27日（日）10:00～15:00 ・開催会場 エコーセンター アトリウムロビー、クッキング室、展示室他 ・開催内容 クッキング体験、茶道体験、書道体験ほか ・参加者数 約240名（内外国人数約60名） ■もちつき体験&冬のあばしり魅力発見のバスツアー ・開催日時 2月1日（日）9:00～16:00 ・開催会場 エコーセンタークッキング室、オホーツク流氷館、北海道オホーツク公園（てんとらんど） ・開催内容 ①もちつき体験、②行政情報提供、③流氷館見学、④てんとらんどにてかんじき&そり体験、⑤ふりかえり ・参加者数 28名（インドネシア9名、中国8名、ミャンマー4名、ベトナム2名、バングラディシュ2名、スリランカ2名、韓国1名） ・応募者数 106名（内当選者34名、当日欠席6名）
成 果	市民と在住外国人の交流機会の創出、在住外国人を対象とした学習機会の提供を軸に、2つの事業を実施し、参加状況や参加者アンケートから概ね好評を得た取り組みとなった。
課 題	外国人が参加できるイベントを市のホームページや公式 SNS などを通じて周知しても、外国人の目に止まらないといった課題があるため、外国人が務める企業や所属する団体を通じて情報提供を図っている。外国人向けの情報提供について課題がある。
今後の方向性	年々増加する外国人に対し、事業周知と事業参加を働きかけ、市民と外国人との相互理解を深める取り組みを通じて、共生社会の実現を進めていく。

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1 教育長及び教育委員の就任状況

教育長：木野村 寧（令和 8年 4月 1日就任）
 委員：佐々木砂宗（令和 4年 3月23日就任、職務代理 令和6年10月1日就任）
 池田 真哲（令和 5年 3月22日就任）
 鴻巣知香子（令和 6年 4月 5日就任）
 新谷 正樹（令和 6年10月 1日就任）

2 教育委員会議の開催状況

網走市教育委員会における会議(教育委員会議)は、定例会のほか、必要がある場合には臨時会を開催し、教育委員会の議決を要する案件(議案)について審議を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。また、案件等について事前に意見交換や協議をする必要がある場合には、教育委員会協議会を開催している。

令和 7 年度の教育委員会議等の開催状況は次のとおりであり、平成22年 1 月以降の教育委員会議の開催状況については、市のホームページに掲載をしている。

なお、会議の傍聴者はいなかった。

回	開催日	出席 委員数	案 件	審議 結果
1	令和 7 年 4 月 28 日	3 名	議案第 1 号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第 2 号 網走市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第 3 号 網走市奨学生選考委員会委員の委嘱について 議案第 4 号 網走市サン育英奨学金選考委員会委員の委嘱について 議案第 5 号 網走市スポーツ推薦審議会委員の委嘱について 議案第 6 号 網走市図書館協議会委員の委嘱について 議案第 7 号 網走市博物館協議会委員の委嘱について 報告第 1 号 網走市教育委員会職員の任免について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 〃 報告承認
2	令和 7 年 5 月 23 日	3 名	議案第 1 号 学校職員の処分内申について 議案第 2 号 財産の取得について 議案第 3 号 網走市学校保健委員会委員の委嘱について 議案第 4 号 網走市奨学生選考委員会委員の委嘱について 議案第 5 号 網走市社会教育施設審議会委員の委嘱について 議案第 6 号 網走市美術館協議会委員の委嘱について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃
3	令和 7 年 6 月 19 日	3 名	議案第 1 号 教育財産の取得の申出について	原案可決
4	令和 7 年 6 月 30 日	4 名	議案第 1 号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第 2 号 網走市学校保健委員会委員の委嘱について 議案第 3 号 網走市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第 4 号 網走市学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について 議案第 5 号 網走市社会教育委員の委嘱について 議案第 6 号 網走市社会教育施設審議会委員の委嘱について 議案第 7 号 網走運動公園再整備構想検討協議会委員の委嘱について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 〃
5	令和 7 年 7 月 29 日	4 名	議案第 1 号 網走市いじめ防止基本方針の改定について 報告第 1 号 第 4 次網走市社会教育長期計画に係る令和 7 年度から令和 9 年度の重点施策の策定について	原案可決 報告承認

6	令和7年 8月20日	3名	議案第1号 令和7年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市教育委員会事務点検・評価報告書の提出について 議案第3号 網走市サン育英奨学金選考委員会委員の委嘱について 議案第4号 網走市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 議案第5号 網走市図書館協議会委員の委嘱について 議案第6号 網走市博物館協議会委員の委嘱について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃
7	令和7年 10月30日	3名	議案第1号 学校職員の処分内申について 議案第2号 網走市いじめ問題専門委員会委員の委嘱について 議案第3号 いじめ防止対策推進法第28条第1項各号に規定する重大事態に関する調査報告書の公表基準の改定について 議案第4号 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について 報告第1号 令和7年度一般会計補正予算に係る専決処分について	原案可決 〃 〃 〃 報告承認
8	令和7年 11月18日	3名	議案第1号 令和7年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第3号 網走市西地域プールに係る指定管理者の選考について 議案第4号 網走運動公園再整備構想について 議案第5号 網走運動公園再整備構想検討協議会委員の委嘱について	原案可決 〃 〃 〃 〃
9	令和7年 12月1日	3名	議案第1号 網走市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本的考え方の策定について	原案可決
10	令和7年 12月11日	4名	議案第1号 令和8年度教育予算の要求について 報告第1号 令和7年度サン育英奨学金奨学生の採用内定について	原案可決 報告承認
11	令和7年 12月26日	4名	議案第1号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第2号 網走市教育委員会職員の任免について	原案可決 報告承認
12	令和8年 1月22日	3名	議案第1号 網走市立学校管理規則の一部を改正する規則制定について 議案第2号 網走市立学校における部活動の地域展開に関する方針について	原案可決 〃
13	令和8年 2月13日	3名	議案第1号 令和7年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 令和8年度教育予算について 議案第3号 令和8年度教育行政推進方針について 議案第4号 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果」の公表について	原案可決 〃 〃 〃
14	令和8年 3月6日	3名	議案第1号 令和7年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市立学校職員の自家用車の公用使用に関する規則の一部を改正する規則制定について 議案第3号 網走市いじめ問題等対策連絡協議会委員の委嘱について 議案第4号 令和8年4月1日付校長人事の内申について 議案第5号 令和8年4月1日付教頭人事の内申について 報告第1号 網走市内の高等学校の在り方検討協議会の協議結果について	原案可決 〃 〃 〃 〃 報告承認

15	令和8年 3月26日	4名	議案第1号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第2号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第1号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第2号 令和8年4月1日付校長・教頭人事について	原案可決 〃 報告承認 〃
----	---------------	----	---	------------------------

※上記のほか、協議会・話し合い等も開催している。

3 その他の主な活動

(1) 各種会議への出席等

教育委員は、教育委員会議に出席するほか、適宜、各種会議へ出席するとともに、学校訪問等を行うほか、入学式や卒業式、二十歳の集いなどに出席している。

区 分 ・ 会 議 名		出席者	時 期
オホーツク 管内教育委員会 協議会	教育長会議	教育長	随時開催（年数回）
	教育長部会（専門委員会を含む）	教育長	随時開催（年数回）
	役員会・総会	教育長他	令和7年7月7日
	教育委員大会（北見市）	教育長他	令和7年12月22日
	教育長研修会（網走市）	教育長	令和7年10月7日
北海道都市 教育委員会 連絡協議会	総会（稚内市）	教育委員	令和7年8月21日
	教育長会春季総会（三笠市）	教育長	令和7年5月22日
	教育長会秋季総会（江別市）	教育長	令和7年11月20日

※上記のほか、各種の会議・研修会等にも出席している。

(2) 教育委員への情報提供

教育委員は、会議に出席するほか、事務局から適宜、教育行政上の課題等について情報提供を受け、事務局と意見交換を行っている。

令和7年度に情報提供等をした主なものは、次のとおりである。

< 案件以外で説明したもの >

- ・行政事務報告（市議会に係る報告を含む）
- ・各種会議・行事・イベント等の開催案内（毎月）
- ・学校経営報告について（毎月）
- ・いじめ問題について（随時）
- ・学校適正規模・適正配置について（随時）
- ・中学校部活動の地域展開について（随時）
- ・教職員の事故等について

4 教育委員による自己点検

令和7年度の教育委員会活動に関して教育委員による自己点検を行い、次のとおり取りまとめを行った。

(1) 教育委員会と学校・PTA・各団体との意見交換などにより、互いの理解を深め、情報を共有して教育活動の適切な実施に努めたい。

- ・ 校長会・教頭会との交流や卒業式、入学式等の機会における先生方や地域住民の皆様との意見交換を通じて、各学校や地域の実情を把握することができました。特に、小学校における学校図書の在り方、教職員の働き方改革、人口減少時代における学校の配置、デジタル端末の利活用など、教育行政に関して現場から有益な示唆を得ることができたことから、今後も各種行事はもちろんのこと、積極的に意見交換の機会の確保に努めます。
- ・ いじめ問題について、問題が発生してしまった際に、教育委員会と学校との密な連携、迅速な対応が重要な鍵になると考えますが、未然に防ぐという観点で考えると教育委員会、学校、家庭（保護者）、地域の人々との連携が重要になってくると思います。オープンスクール、参観日、コミュニティ・スクール等、様々な場面でいじめ根絶の意識共有を図り、子どもたちが安全で健やかな学校生活を送れるよう努めます。
- ・ 学校教育においては、ますます地域社会との連携が必要な時代になってきたと思います。社会の良識を数多く学ぶためにも、地域の方々とのふれあいは子どもたちにとって必要であるため、先生方のみならずコミュニティ・スクールへ参加される地域住民の方々と教育委員会が想うベクトルを一致させることが大切と考えます。
- ・ 小中学校の適正配置や部活動の地域展開など、教育行政は大きな転換期を迎える中、学校、PTA、地域、保護者の多様な声を丁寧にすくい上げ、適切な教育活動の実施に結びつけていくためにも、教育委員自身が地域の皆様と「顔の見える直接的な意見交換の場」を持っていくことが大切であると考えます。

(2) 今後も社会教育活動及び各学校の研究発表、その他の行事などに積極的に参加し、市民ニーズや現状の把握などに努め、教育の質的向上を図りたい。

- ・ 各学校の研究発表への参加を通じて、新しい時代に必要となる資質・能力の育成方法、ICTの利活用状況、特別支援教育の現状など、様々な気づきや有益な知見を得ることができました。今後も積極的に参加し、本市教育の質的向上につなげていきたいと考えます。
- ・ スポーツ合宿・芸術文化合宿誘致活動は公演会や大会の市民の観覧にもつながり、芸術文化の発展、経済活動はもちろんのこと、子どもたちの教育にも大きく寄与しているものと考えます。一方で、友好都市交流や観光事業など、教育性の高い事業が他部署で行われており、部門間の垣根を超えた協力により、更に意義や効果の高いものになると考えます。
- ・ 社会人に対する学びの企画はよく活動されていると思います。受益者である参加市民の数をさらに膨らませるための広報活動が必要だと思います。どのような情報発信がよいのかこれに重きを置いて取り組んでいければと思います。
- ・ 社会教育では、市民や児童生徒向けに、趣向を凝らした企画を行っていると思います。現在の市内小中学校のDX化の進展には感心することが沢山ありますが、子育てを卒業した世代をはじめとする市民一般にはまだ十分に認知されていないと感じます。広く市民向けに、現在の小中学校の授業がどのように行われているのかを知り、体験してもらえる機会を作ることができれば、市民の理解度が増して良いのではないかと考えます。

- ・部活動の地域展開に伴い、児童生徒を取り巻く環境が大きく変化する中で、子どもたちが「やりたい活動ができなくなる」という状況に陥らないよう柔軟な対応を模索していく必要があります。柔軟で持続可能な受け皿づくりのため、社会教育の視点も含めて我々教育委員も研修会や講演会等へ積極的に参加し、先進的な事例をさらに学んでいく必要があると感じています。

(3) 市民、特に児童生徒を対象とした健康・安全の確保、学校行事等の円滑な実施、施設の充実など、今後も事業内容を検討・精選しつつ、維持・継続されるよう努めたい。

- ・市民や児童生徒が健康で安全・安心な社会の構築に向け、施設の点検・防災教育など、地域・家庭・学校と連携を強化し、取組を引き続き行うとともに、地域や保護者、児童生徒に信頼される学校づくりを進めるために、教育委員会として支援できる体制を整備したいと思います。
- ・総合教育会議の場において、学校の適正規模・適正配置や社会教育施設の在り方、高校の魅力化等について意見交換を行うことができました。今後も関係部局とも連携を図りながら、市民や児童生徒が安全・安心に過ごせる教育環境の整備と、教育行政のさらなる発展に努めていきます。

(4) 児童生徒の学力・体力の基礎・基本を確実に身につけさせるとともに、心の教育の充実に努めたい。

- ・児童生徒の学力向上に関しては、諸先生方の努力の結果が出てきたと感じています。更なる向上と、引き上げてきた現状を今後維持していくための取組が必要であると思います。
- ・児童生徒が体験を通じて楽しさを味わいながら学ぶ力を習得する機会が更に増えるとうよいと思います。また、道徳の時間の授業公開も更に発展させてほしいと思います。
- ・心の教育・道徳については、家庭での協力が重要だと感じておりますので、学校から家庭への働きかけ等を通して、学校と家庭が一体となり取り組む必要があると思います。
- ・指導上課題のある児童生徒に関しては、学校側が対応しても保護者側に改善が見られないケースも見受けられます。教育委員会、学校、様々なファクターが連携し、事態が良い方向に向かう体制を構築する必要があると思います。
- ・毎年行われている全国学力・学習状況調査の結果を、広報あばしり及び市のホームページにおいて公表していることにより、学校・家庭が一体となって児童生徒の学習への取組が改善され、更なる学力向上につながっていくことを期待します。
- ・引き続き、校内研修や学習環境の充実、幼保小中高連携の推進、PTA・地域との連携による基本的生活習慣の確立や家庭学習の習慣化などの学力向上に向けた、更なる取組が必要であると思います。
- ・児童生徒に配布されているタブレットが、授業や学校のプリント等の活用だけでなく、電子図書館を利用できていることは、本を身近なものとして読書量の増加につながっているものと思います。
- ・児童生徒の体力の向上を図るため、現状行われている全国体力・運動能力、運動習慣等調査を公表していることで、学校・PTA・地域が一体となり、更なる体力向上を期待します。また、学力だけではなく、体力についても、学力向上推進委員会と連携を密にし、今後の網走を支えていく子どもたちを育てていかなければならないと思います。
- ・大切な学校教育の人的資源である先生方のメンタルケアを行う仕組みづくりが必要と思われます。精神的、内面的にも医療従事者に相談等できるとなると良いと思います。また、時間外労働報告も散見されており、今後も先生方の働き方改革が円滑に進むよう注視していきたいと思っています。
- ・教育委員会の中でも、学力・体力等の先進的な取組をしているところの視察や研修など

を行うことを検討してまいりたいと思います。

- ・スマートフォンやタブレットなどＩＣＴ機器に触れる機会も以前にも増して増えていると考えます。いわゆる、「ネットいじめ」に対応した道徳教育、特にＳＮＳやゲームの通信機能等を介在した情報モラル教育はもちろん、ＩＴリテラシーの向上を図り、コミュニケーションや情報端末としての有効活用で、学力の向上にも寄与する取組がより一層必要と考えます。

(５) 学校の実情・地域の特徴に応じた魅力ある学校づくりを更に支援したい。

- ・コミュニティ・スクールについて、校長会、教頭会などと連携し、地域の方々と学校とのつながりをバックアップしてまいりたいと思います。
- ・コミュニティ・スクールでは、どのような内容の議論が交わされているかという詳細な情報が教育委員まで十分に届いていない印象があります。年度初めの経営計画や年度末の報告だけではなく、特に児童生徒に関わる重要な内容や地域の課題などが話し合われた際には、そのプロセスの情報が共有される仕組みづくりを期待します。
- ・近年、特性を持つ子どもたちが増えている傾向にあると感じています。対応する先生方も研修や講演会などで色々な知識を得られていると思いますが、専門的な知識や経験を持つスクールカウンセラーの存在が重要だと思いますので、カウンセラーの方々と意見交換や情報交換できる場があるとよいと思います。
- ・近年ＩＣＴ機器を使用した授業が増えてきています。先生や生徒はもちろんのこと、我々教育委員も視察などで目にする機会があるため現状を把握することはできますが、保護者や地域の方々に、今、学校で行われているＩＣＴ教育がどのようなものかを知ってもらえる機会が増えると感じています。

(６) 教育委員会の更なる発展のため、意欲的な取組をしている他市の教育委員会との交流に取り組みたい。

- ・教育委員会の視察や研修は、不登校問題の現状、部活動の地域展開、ＩＣＴ教育の先進的な利活用事例など、全国的な重要課題を学ぶ絶好の機会です。今後も他都市や優れた取り組みを行う団体の先進事例から指導・知見を積極的に得て、本市の教育行政施策の決定や課題処理に役立てられるよう努めてまいります。
- ・教育委員会からの情報発信を、様々な媒体を使い積極的に行うことが必要だと考えます。そのことによって情報を受け取った他市との交流も生まれることが期待できると思います。引き続き、他市の教育委員会との意見交換の場への積極的な参加に努めたいと思います。

(７) 教育委員、教育委員会事務局が連携を図るとともに、会議の公開・情報発信に努めながら、より一層、網走の教育発展のために努めていきたい。

- ・教育委員会や協議会の開催にあたっては、事務局からの事前の会議資料の配布により、スムーズな議事進行がなされており、また、「学校だより」や「学校経営報告書」についてもペーパーレス化により、効率的な運営がなされています。事務局からは必要な情報も適時報告を受けており、今後も円滑な連携を図っていく必要がありますが、より一層充実した審議を行うためにも、事前検討のための資料の事前配布や、ゆとりを持った計画的な会議の日程調整に努めていただきたいと思います。
- ・教育委員会や協議会では、活発な意見交換を積極的に行うことが必要であり、今後も、事務局との情報提供・意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。また、開かれた教育委員会を目指し、市民に対し「なぜ情報発信をするのか」を考え、それを踏

まえて「どのようにしていくか」「なにをするのか」を考えることが情報発信に必要なことから、会議の傍聴や議事録の閲覧についての周知が必要であると思います。

- ・ これまでに総合教育会議により、市長との意見交換が行われてきたところですが、今後も継続することにより、相互理解と教育行政の更なる進展を図ることができると思います。
- ・ 各教育計画策定において、わかりやすい表現で広報することが教育委員会活動を市民の皆様にも周知させる第一歩だと思います。
- ・ 小中学校の適正規模・適正配置に関しては、「基本的考え方」として市民の皆様にも見ていただける資料を公表することができましたが、説明の場では、一部の方々にまだ十分な理解が行き届いていない様子も見受けられたことから、今後の議論の中で、資料の更新について検討する機会があっても良いと思います。また、大きな転換期を迎える施策だからこそ、今後も市民への丁寧な説明と市民ニーズの的確な把握に努め、より良い施策につなげるべきと考えます。

(8) 学校教育運営のリスクマネジメント支援に努めたい。

- ・ いじめに関する第三者委員会による報告書が一部まとまり、保護者への説明等がなされたことは一つの節目となったと考えます。しかし、いまだ報告書がまとまっていない案件も残されており、保護者の心情を鑑みても、早期の取りまとめと解決が切に望まれます。いじめへの対応は何よりも「スピード感」が極めて重要であり、重大な事態へと発展することがないように、学校と教育委員会の連携を強め、いじめ防止に向けて働きかけていきたいと思います。
- ・ 不登校の児童生徒に関しては、学校でしか体験できない様々な学びがあることを考慮しつつ、様々なパートナーと連携し、学びへのアクセスが確保されるべきであると考えますが、都市部と比較し、学校以外の学びの場が十分に整備されているとは言えないことから、学校復帰の要素と居場所づくりに加えて、学びへのアクセスが確保されるよう努めます。
- ・ 小中学校間における授業の連携等は進んでいると思いますが、小学校において指導上課題のある児童について、小中学校相互でしっかりと情報共有・連携が図られるよう支援に努めます。

IV 外部評価報告書

『網走市教育委員会に対する外部報告書（令和8年8月1日）』

網走市教育委員会外部評価委員

【学校教育】日本体育大学附属高等支援学校 教諭 平田 和史

【社会教育】元網走市社会教育委員 岡山 一枝

1 学校教育

1 総 評

網走市における教育行政の執行に係る外部評価について報告いたします。

昨年度まで、中学校長として網走市の学校教育に携わってまいりました立場より、網走市教育委員会が、教育環境の整備や教育施策の推進に継続してご尽力いただいておりますことに、深い敬意とともに感謝を申し上げます。

教育行政推進方針に掲げてある事業につきましては、概ね予定どおり円滑に実施されていたことを今回改めて確認しました。

以下、本事務点検・評価報告書に記載されている学校教育の推進における事業点検の項目に沿っての事業評価をさせていただきます。

2 各事業項目の評価について

（1）幼児期に身につけるべき基礎の育成

○幼保小連携事業では、1日体験入学や学校行事の合同開催、教育支援委員会の複数回開催、新就学児童を対象とした教育相談会の実施など、いわゆる『小1プロブレム』を発生させず、幼児が安心して小学校生活へ移行できる環境づくりを進めていることは評価できます。一方、特別な支援を要する児童の増加については全国的な傾向にあることから、網走市についても、今後関係機関との連携を一層充実させるとともに、早期からの教育相談や就学支援体制の強化を図り、個に応じた支援の充実に努めることが必要ではないかと思います。

（2）確かな学力の育成

○セカンド GIGA への取組に向けて、端末やネットワーク環境などのハード面が着実に整備され、児童生徒が ICT を円滑に活用できる学習環境が整ったことは高く評価できます。今後はデジタルドリル教材や指導者用デジタル教科書のさらなる充実を期待したいです。一方で、学校現場での ICT の効果的な活用状況や教師の指導力には、学校・教職員間で差異が見られ、改善の余地があると思います。教育委員会主導による実践的な研修や、学校への継続的な支援体制を整備させることで、ICT を活用した授業改善と指導力の一層の向上を図ることができるかと思っています。

○学力向上対策事業の一環として、全児童生徒を対象とした教研式標準学力検査の実施により児童生徒の学力の定着状況を把握するとともに、学級・学年・学校全体の課題を明確にすることができています。その分析結果を授業改善や個に応じた指導に活用することで、学力向上に向けた指導の充実が図られていると考えます。今後も学力の継続的な把握とさらなる学力向上のため、事業継続のための予算措置をお願いいたします。

○児童生徒の充実した学びを保障するためにも教材教具購入の予算措置は不可欠となります。網走市の厳しい財政状況の中、大変とは思いますが、予算の確保に尽力いただきたいと思います。

○網走市は2名の ALT を配置して、市内小中学校にて授業を中心としたコミュニケーション活動を通じた英語の表現力向上を図っていますが、全学級の授業に週1回（学校規模によっては週2回）入ることでよりコミュニケーション能力が高まると思います。それを実現させるためには、現行の体制を増員させた3名配置の必要がありますが、予算の関係から現実的ではありません。上記課題を解消する一つの手段として、地域人材を活用した学習支援（社会教育における学校支援地域ボランティアの活用）など考えられな

いでしょうか。

- 令和7年度からの新規事業『網走市総合学校力向上実践事業』は、前年度で終了した道教委の指定事業『学校力向上に関する総合実践事業』での取組を踏襲し、その成果をより発展させるために発足させた非常に意義深いものです。今後、4つの事業体制「①網走市総合学校力向上推進委員会」「②中学校区連携推進会議」「③網走市共同学校事務室会議」「④網走市 Well-being 推進アドバイザー」をより活性化させることで、網走市の学校力を一層向上させることを期待します。
- 上記アドバイザーとして、各種研修会に講師を招聘しての指導・助言は、教職員の確実な授業力向上につながるものと思います。また、ICT活用研修のさらなる充実で、より多くの教員のスキルアップを図ってもらいたいです。
- 学習支援員の配置により、算数・数学において学習内容の基礎・基本の定着（特に学力の定着に課題のある児童生徒）に成果を上げていることは大いに評価できます。ただ、数学の免許所有者の人材不足により、希望しても未配置とならざるを得ない学校もありましたので、各学校、教育委員会で情報を共有しながらの人材確保が望まれます。
- 『あばしり寺子屋開催事業』は、参加児童の学習意欲向上はもとより、ボランティア学生が学習サポートを通して、「子どもたちを教えることへのやりがいや魅力」を実感することで、教員を目指すきっかけとなることも考えられるので、大変有意義な事業です。課題に挙がっている参加児童の増加の仕組みと効果的な周知方法については、実際に参加した児童の口コミや、何らかの特典（例えば公共施設利用の優待など）を設けるなどの工夫が必要かと思います。

（３）豊かな人間性の育成

- 学校図書館標準を踏まえた図書購入予算を、学校規模に応じて継続的に措置したことで、蔵書の充実が図られ、児童生徒の学習活動や読書環境の向上につながったことは高く評価できます。また、学校図書館司書の配置により、図書館の適切な管理・運営に加え、読み聞かせや図書紹介などの読書活動の推進が図られ、児童生徒の読書への関心や意欲向上に寄与しました。一方で、図書の劣化や破損への計画的な更新と、教育的価値を踏まえた古書の適切な選定・整理を進め、より利用しやすい図書館づくりを各学校、図書館司書とともに推進していくことが課題です。
- 網走市子ども会議は、各小中学校の児童会・生徒会代表が一堂に会し、学校紹介や取組、いじめ防止などについて意見交流を行い、スローガンを発表することで、自校の課題解決に向けた取組の契機となりました。また、学校代表としての自覚を深め、主体性やリーダーシップを育む貴重な機会となっていることは評価できます。今後は、報告にあるような今日的な教育課題や子どもたちの関心事項を会議の議題とし、話し合いの結果を「学びEXPO in 網走」で発表するなど発展させることが大変有意義であると思います。
- 児童が優れた舞台芸術に触れる機会は、豊かな感性や情操を育む上で大変有意義です。合同観劇事業は、教育的効果が高い事業であることから、今後も継続して観劇に対する支援を行い、児童の文化芸術に親しむ機会を確保していくことが望まれます。
- いじめの実態把握や未然防止、早期発見・対応・解決に向けた学校への支援に加え、各種調査やいじめ問題調査委員会の適切な運営により、組織的な対応体制の充実が図られています。また、いじめ相談・報告アプリ「STANDBY」の予算措置は、相談しやすい環境整備につながる取組として評価できます。今後は児童生徒だけでなく、保護者や地域住民を含め「いじめはいかなる理由があっても許されない」という共通認識を一層醸成し、教育委員会が中心となって地域全体でいじめの未然防止と根絶に取り組む機運を高めていってもらいたいです。

（４）健やかな体の育成

- 学校プールや学校スケートリンクは、夏季・冬季における体育学習を支える重要な教育施設であり、児童の体力向上や安全な学習環境の確保に欠かせません。今後も教育活動を継続的に実施できるよう、計画的な施設の維持管理と必要な整備に努め、良好な教育環境の確保を図ることが望まれます。

- 安全・安心でおいしい学校給食の提供に努めるとともに、給食従事職員の職場環境改善が図られたことは評価できます。一方、学校給食施設の老朽化が進む中、安定した給食提供を継続するためには、計画的な維持管理や改修を進めるための財源確保が今後ますます重要となります。
- 学校給食を通して、児童生徒の成長に必要な栄養バランスの確保や、食事のマナー、望ましい食習慣を身に着ける食育が着実に推進されたことは評価できます。また、給食設備や備品の修繕・更新により、安全で安定した給食提供体制の維持が図られました。一方で、児童生徒の給食無償提供が続く中、食材価格の高騰への対応や地元食材の積極的な活用を進めるとともに、各調理場が連携しながら効率的で持続可能な給食運営を推進していくことが今後の課題ではないでしょうか。
- 新入学児童の就学時健康診断や在籍児童生徒の各種検診について、学校と医師等の関係機関と連携し、円滑な日程調整のもと適切に実施されたことは高く評価できます。児童生徒の健康保持・増進を支える重要な取組であり、今後も継続的な実施を期待します。
- 子ども体力づくりサポート事業における、講師による模範授業や研修会は、教員の指導力向上につながる有意義な取組として評価できます。今後は、市内全校への取組の拡充を図るなど、教員の意欲向上につながる具体的な施策を期待します。
- タグラグビー大会は市内小学校に定着し、児童の体力や技能の向上はもとより、ラグビーへの関心や親しみを深める機会となっていることは高く評価できます。今後もラグビーフットボール協会との連携・協力を一層深め、本事業を継続・充実させていくことを期待します。
- 中学校体育文化振興事業における各種大会参加への手厚い経費補助は、保護者の経済的負担を軽減するとともに、生徒が安心して部活動をはじめとする体育・文化活動に取り組める環境づくりに大きく寄与しており、学校現場にとって大変意義のある取組として評価できます。今後は、部活動の地域展開の進捗を踏まえ、補助対象や支給要件についても実態に即した見直しを行い、より効果的で持続可能な支援制度となることを期待します。

(5) 支援が必要な子どもに対する教育体制の充実

- 特別支援教育の推進については、施設・備品の整備や必要経費が適切に措置され、支援を必要とする児童生徒が安心して学習できる教育環境の充実が図られたことを評価します。また、増加傾向にある支援ニーズに対し、一人一人の実態に応じた支援体制の充実や、特別支援教育研修の実施による担当教員の専門的知識・指導力の向上に努められたことも評価できます。さらに、特別支援教育支援員による個々に寄り添うきめ細やかな支援は、児童生徒への適切な支援と学級運営の安定に大きく寄与しているものと考えます。一方で、支援体制をより充実させるためには、教職員人事において、各学校長と情報を共有して、特別支援教育に関する豊富な経験と専門性を有する教員の安定した確保に努めるとともに、学校ごとの実情や特別支援学級在籍生徒数に応じた支援員の適正な配置や増員について、引き続き検討されることを期待します。
- 教育児童相談室では、専門相談員2名を配置し、学校訪問や関係機関との緊密な連携を通して、児童生徒一人一人の教育上・福祉上の課題に対し、きめ細やかな相談支援と問題解決に尽力されていることは高く評価できます。学校現場にとって大変心強い存在であり、その取組に敬意を表します。今後も学校や関係機関とのさらなる連携強化と情報共有を図り、より充実した支援体制の構築を期待します。
- 各小中学校へのスクールカウンセラーの配置により、児童生徒はもとより、保護者や教職員を含めた教育相談体制が充実し、専門性を生かした適切な指導・助言によって、不登校や問題行動、家庭や学校生活に関する様々な課題の解決に大きく寄与していることは高く評価できます。また、今年度新たに配置されたスクールソーシャルワーカーは、学校・家庭・関係機関をつなぐコーディネーターとして緊密な連携を図り、児童生徒への支援に尽力されたことは学校現場にとって大変心強かったと思います。今後は、各学校との定期的な情報共有の機会を設けるなど、さらなる連携体制の強化を期待します。
- 教育支援センター（クリオネ学級）は、増加傾向にある不登校児童生徒に対し、学びの

機会を保障するとともに、集団生活への適応を通して学校復帰を支援する重要な事業として高く評価できます。また、施設の移転により課題であった狭い状況も解消され、より良い教育環境が整備されたことも成果です。今後は、安定した通級支援を継続するとともに、一人一人の状況に応じた学校復帰への支援を一層充実させるため、学校や家庭との連携をさらに深めていくことを期待します。

- 学級集団状況把握事業における Q-U テストの複数回実施により、学級や児童生徒一人一人の状況をよりの確に把握し、その結果を学級経営に生かすことができていると思います。問題行動等の早期発見・解決、未然防止にも効果を上げており、今後も継続して実施することを期待します。
- 学校教育専門相談員が配置されたことで、各学校におけるいじめや不登校、問題行動への対応、保護者対応などに対し、豊富な経験と高い専門性を生かした適切な指導・助言が行われ、学校現場の大きな支えとなっていました。また、いじめや不登校に関する情報共有を通して、各学校が安心して組織的な対応を進めることができました。今後は、指導方法や対応プロセスの共有化を一層進め、相談体制のさらなる充実を期待します。
- 発達障がい児童・生徒支援事業におけるアドバイザーの専門的知見に基づく指導・助言は、派遣先の学校にとって大きな安心と今後の自信につながる有意義な支援となりました。今後は、派遣回数や学校訪問時間の充実を図り、さらなる支援体制の強化を期待します。

(6) 学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進

- 学校給食の無償化事業は、保護者の経済的負担の軽減に大きく寄与しており、高く評価できます。物価高騰が続く厳しい状況にありますが、今後も安全・安心で栄養バランスに優れた、おいしい給食を安定して提供できるよう、継続的な取組と必要な財政支援を期待します。
- 小中学校体育館の開放は、市民のスポーツ活動の場を確保する取組として評価します。今後も継続を期待するとともに、施設を大切に利用する意識の向上に向け、利用マナーの啓発についても引き続き取り組んでいただきたいと思います。
- 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）は、学校運営や教育課題について地域住民から幅広い意見や助言を得られる貴重な仕組みであり、学校の応援団として大変意義深い取組と評価できます。今後は、熟議を一層充実させ、地域との連携・協働がさらに深まるよう、教育委員会において各学校への助言や好事例の共有など、積極的な支援を期待します。
- 各奨学金事業は、学業成績が優秀で向学心を持ちながら、家庭の経済的事情により就学が困難な学生を支援し、希望する上級学校への進学を実現する大変意義深い事業であり、高く評価できます。一方で、貸付償還金の滞納や財源確保といった課題はあるものの、将来の地域や社会を担う人材の育成という観点からも、持続可能な制度運営につとめながら、今後も事業を継続していただきたいと思います。
- 網走市総合学校力向上実践事業の一環として開催している「学び EXPO in 網走」は、教職員だけでなく保護者や地域住民も参加し、学校教育の現状や今日的な教育課題について理解を深め、情報を共有できる大変有意義な取組として高く評価できます。学校・家庭・地域が学びを通してつながる貴重な機会として、今後も内容の充実を図りながら継続して実施されることを期待します。
- 小中学校就学奨励事業は、経済的理由により就学が困難な家庭を支援する大変意義深い事業であり、高く評価できます。今後も認定事務の効率化を図りながら、公平性を確保し、必要とする家庭への支援が継続されることを期待します。

(7) 学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現

- 教職員住宅は老朽化の対応として修繕や解体が進められていますが、教職員の確保や定着の観点から、住環境の整備は重要な課題です。民間住宅家賃への補助制度の充実を図るとともに、地域の実情を踏まえ、市が管理する教職員住宅の在り方についても、計画的な維持・存続を含めて検討してみてもいいでしょうか。

- 学校管理運営費や学校施設の改修・営繕・修繕について、網走市の厳しい財政状況の中、限られた財源を有効に活用しながら教育環境の維持・充実に努めている教育委員会の取組を高く評価します。特に、近年の猛暑に対応し、市内小中学校の教室や職員室などへの冷暖房施設を整備されたことは、児童生徒の学習環境の向上と教職員の勤務環境の改善につながる大変意義深い取組です。また、スクールバスの運行や子ども安全対策事業を継続し、安全・安心な通学環境の確保に努めていることにも深く敬意を表します。今後も学校施設の計画的な整備・修繕を進めるとともに、安全で快適な教育環境の維持・充実に引き続き取り組まれることを期待しています。
- 令和11年度の3年生引退後の部活動地域展開を見据え、「部活動あり方検討事業」を立ち上げ、将来にわたり児童生徒がスポーツや文化活動を継続できる環境づくりについて検討を進めていることを評価します。今後は、児童生徒や保護者、地域の意見やニーズを十分に踏まえ、持続可能な地域展開の実現につながることを期待します。また、移行期間においても、現行の中学校部活動の充実に向け、部活動指導員を配置するなど、教育活動を支える取組を継続していることも評価します。
- 小中学校における充実した教育活動を推進するため、吹奏楽楽器の整備による音楽教育の充実や、学校教育研究実践校補助による学校や教職員の研修機会の確保、校務支援システムや教職員用パソコンの更新による校務の効率化と情報共有の促進など、多方面にわたる支援を着実に進めていることを高く評価します。また、教職員健康診断の実施をはじめ、教職員が安心して教育活動に専念できる環境づくりにも配慮されていることに敬意を表します。今後も学校や教職員への継続的な支援を通して、より質の高い教育環境の充実が図られることを期待します。
- 網走南ヶ丘高等学校定時制の補助や通学手段への助成は、夜間における生徒の安全な下校と通学の利便性向上に大きく寄与するとともに、定時制高校の生徒数維持にも貢献している取組として高く評価します。また、少子化の進行により高校を取り巻く環境が一層厳しくなることが予想される中、市内2校の将来的な存続に向けた事業については、各高校や関係機関と連携しながら、特色ある教育活動の充実や魅力発信など、実効性のある施策が展開されることを期待します。

2 社会教育

1 社会教育事業の評価の視点

社会教育事業は「社会教育長期計画」に基づき、毎年、各課・館が推進計画を策定し、それに従い事業が進められています。令和7年度も市教育委員会が定める「第4次社会教育長期計画」に基づき、各事業が地域課題や市民ニーズに即してどのように展開されたかを評価の視点に持ち、以下のとおり事業評価をさせていただきます。

2 各事業項目の評価について

(1) 生涯学習について

- 市民の生涯学習のきっかけづくりを目的に実施される「まなび塾フェスティバル」は、令和7年度は来場者数約1,058名、参加スタッフ186名と、多くの市民参加を得て定着したイベントとして盛況に開催されました。今後は、オホーツク・文化交流センター（エコーセンター2000）利用サークルの活動発表に留まらず、更なる生涯学習活動の拡大に向けて、より幅広い層への周知や参加呼びかけの工夫が継続されることを希望します。
- 「大きなかぶ応援事業」において、12団体（うち新規4団体）への支援が行われ、市民の主体的な学習活動が活発に推進されている点进行评估します。
- 生涯学習推進指導員バンク（登録17名）や、子どもと遊ぼうボランティア隊（登録28名）による地域貢献活動が展開されています。今後は、市民の持つ多様な知識・技能がより効果的に地域へ還元されるよう、ニーズとの適切なマッチング機能の向上に努めてください。
- 19年ぶりに網走市で開催された「第69回北海道公民館大会」では、全道から多くの関係者が集まり、公民館活動のDX推進や社会教育施設の再編について有意義な議論が交わされました。この大会の成果を一過性のものとせず、本市の今後の社会教育施策や施設運営に具体的に反映させていくことを期待します。
- 図書館機能の充実においては、電子図書が6,498点まで拡充されたほか、地方資料の整備として、貴重な地方紙の電子化（デジタルアーカイブ化）が進められ、地域の情報を歴史資料として残す取り組みがされていることを高く評価します。
- 「ブックスタート事業」での絵本贈呈（132名）や、「クリオネ文庫（学校巡回）」、乳児向けの「ベビークリオネ（絵本パック）」の配布など、子どもの発達段階に応じた細やかな読書推進活動が定着している点は良い取り組みと感じます。
- 一方で、よみきかせ等を支えるボランティア団体の会員減少や高齢化が課題となっています。令和7年度に実施されたボランティア養成事業（絵本セラピーや朗読講座等）を通じて新規会員の確保に繋がったことは好事例であり、今後も若い世代や現役世代が参加しやすい環境づくりや養成講座の充実をお願いします。

(2) 社会教育について

- 50期の節目を迎えた「網走市民大学講座」では、著名な講師陣を招聘したことで延べ1,412名の受講者を数え、市民の学習ニーズに大きく応えた実績を評価します。
- 「あばしり学講座」において、高校生や大学生がジュニアリーダー（学生HERO'S）として活躍し、子どもたちの自然体験や学びを先導していることは、次世代の地域リーダー育成の観点から大変意義深いものです。今後も継続して取り組まれることを期待します。
- 一方で、青年講座（あばしり学U-35）における参加者の減少や、各種講座の受講者が高齢層に偏っている点が課題として見受けられます。北海道科学大学との包括連携協定を活用して開催された「生成AIを使ってアプリを作ろう！」講座のように、若年層や現役世代の関心が高いテーマ（最先端技術やキャリア支援等）への大胆なシフトや、SNS等を活用した効果的な広報活動の展開を期待します。
- また、海洋冒険家・白石康次郎氏を招いた「子ども夢育事業」が開催されました。毎年、多様なジャンルで活躍されている講師を選定し、夢を持つこと、夢に向かって努力することの大切さを学ぶ良い機会を提供していると思いますので、これからも継続して実施されることを期待します。

- 「暮らしをデザイン講座 2026」では、社会的な課題となっているインターネットと SNS の活用方法をテーマとした講座が開催されています。講座を通じて市民生活の向上が図られることは良い機会と考えます。
- 「寿大学の開設」は、高齢者の生きがいづくりや社会参加の促進の観点から必要な取り組みと考えます。課題にあるように時代に応じたカリキュラムの検討などを通じて、増加する高齢者のニーズに合った取り組みの展開を期待します。
- 「学校支援地域本部事業」では、登録ボランティア（個人 269 名、団体 19 団体）が市内小中学校延 30 校において、学習支援や登下校指導、部活動指導の補助など多岐にわたるサポートを提供しています。地域全体で子どもを育てる強固な協働体制が維持されている点を高く評価しますが、平日に活動してくれるボランティア数に限りがあることが伺われます。学生ボランティアの確保などを通じた学校ニーズとのマッチングの調整が必要と思われます。

（３）家庭教育について

- 網走市父母と先生の会連合会（PTA 連合会）と連携した、「家庭教育学級」、「家庭教育フォーラム」が開催されています。令和 7 年度は、家庭教育学級では蕎麦打ち体験や車イス体験が実施されるとともに、家庭教育フォーラムではお金について学ぶ講演が実施され、家庭への教育的支援の充実が伺えます。
- 子育て支援課と連携した「子育て講演会（絵本作家・サトシン氏）」では、託児環境（17 名）を整備し、保護者が安心して学べる場を構築した点も適切な配慮と感じます。
- 子ども会連合会や豊かな心を育む活動推進会議の活動支援を通じて、地域全体で子どもを見守り育てる取り組みの展開が見られます。町内会の子ども会活動が停滞する中、「サマーデイキャンプ」や「子ども大会」などの開催を市全体として実施していることを評価するとともに、標語の募集や意見発表会など、デジタル技術を活用しながらも子どもたちが自らの言葉で考え、表現する取り組みを展開されていることを評価します。

（４）文化芸術について

- 市民会館大ホールで開催された「札幌交響楽団網走公演」や、市立美術館にて開催された「SOMPO 美術館『東郷青児・ジョルジュ・ルオー』展」の開催は、網走信用金庫創立 100 周年記念事業の寄附に基づいて実施されましたが、音楽や美術の分野で、市民が一流の芸術文化に直接触れられる機会を提供されたことを高く評価します。
- 市立博物館では、特別企画展として「平成カルチャー展」、「網走のヨコエビ展」などユニークで魅力ある企画展が開催されたほか、モヨロ貝塚館では「オホーツク遺跡街道づくり推進事業」が新たな事業として展開され、土器づくり体験などの講座が展開され、自然や歴史を通じた学びの機会が提供されていることを評価します。
- また、芸術文化合宿をきっかけに令和 7 年度全国で初めて開催した「フォトマッチインターカレッジ全国大会 in 網走」では、写真文化の振興や地域づくりを目的とした取り組みが展開され、社会教育が担う事業として高く評価します。
- 一方で、エコホールの高稼働に伴い、アトリウムロビーを活用した「ロビーコンサート」の実施回数が減少した点については、施設の運用ルールの見直しや、他の公共スペースの代替活用を検討するなど、市民の発表の場が損なわれない工夫を求めます。
- さらに、エコホールの予約がなかなか取れないとの話を聞きます。市民会館を改修しホール利用者の分散ができればよいのですが、市民会館の改修には多額の費用を要することから、今後の検討課題と認識します。

（５）文化財について

- 史跡モヨロ貝塚において、体験学習やイベント、講演会など「モヨロカレッジ」を通じて PR 事業が展開されています。歴史資源をただ展示するだけでなく、市民が自ら手を動かし、オホーツク文化に思いを馳せる良質な学習機会を提供している取り組みとして評価します。
- 令和 7 年度より取り組まれている「オホーツク遺跡街道づくり推進事業」は、観光コン

テンツと連携を図り、これまで点であった遺跡を「オホーツク遺跡街道」という一つのストーリー（線）でつなぎ、地域全体を歴史・文化が体感できる観光エリア（面）へと進化させる取り組みと感じます。歴史を核とした地域づくりの展開としてこれからの取り組みを期待します。

- また、博物館網走監獄の耐震対策に対し補助金の交付が行われており、歴史的建造物を文化財として保存する取り組みを支援することは、地域の財産を守り未来につなぐことにもつながる大変意義ある取り組みと感じます。

（６）スポーツについて

- 令和７年度は「総合運動公園内の屋内体育施設を対象とした基本構想の策定」に取り組まれました。老朽化・耐震化が課題となっているスポーツ施設の再編に着手されたことを高く評価します。
- 総合体育館では、「各種スポーツ教室」、「いきいき健康体力づくり教室」、「子どもスポーツチャレンジ事業」など、健康づくりやスポーツに親しむ講座など様々な取り組みが展開されています。特に「障がい児・者スポーツ教室」の取り組みは、誰もがスポーツに親しむ取り組みの一貫として評価します。
- 一方で、各種スポーツ教室や障がい児・者スポーツ教室において、指導員の確保が課題となっていることから、広域での人材バンクの共有や民間インストラクターとの連携強化など、多様な人材確保の仕組みづくりを進めていただきたいと思います。
- スポーツ合宿や全国・全道スポーツ大会の誘致は、これまでスポーツ課が積み上げてきた実績と経験が光る、網走においても特徴的な取り組みとして評価します。継続した誘致を通じて、市民や子どもたちがトップアスリートと交流し、さらには街の活性化につながる取り組みとして継続して取り組まれることを期待します。

（７）国際化の対応について

- 「世界を旅しよう！～網走で外国を体験～」事業では、連携協定を締結している北海道文教大学国際交流センターの留学生 10 名（スリランカ、中国、シンガポール、韓国等）を講師役に迎え、市内の小学生 14 名が直接外国人から異文化を学ぶ貴重な機会を創出しました。子どもたちの国際感覚を育む上で大変有意義な取り組みであり、高く評価します。
- 今後、体験学習を指導できる在住外国人の市民講師や連携大学とのパイプをさらに強固にし、人材確保の多角的な検討を進めることで、参加希望の多い本事業を安定的に継続・推進していかれることを期待します。

3 令和７年度事業の総評について

令和７年度の社会教育事業は、長年培われてきた本市の社会教育基盤を大切に継承しつつ、民間企業や大学など高等教育機関との連携、さらにはデジタル技術の活用など、新たな時代を見据えた意欲的な取り組みが随所に光る１年であったと評価します。

特に、19 年ぶりとなった「北海道公民館大会」の主管や、50 期を迎えた「網走市民大学」における過去最高規模の受講者数（延べ 1,412 名）の記録は、市民の皆様の非常に高い学習意欲が結実した素晴らしい成果です。さらに、芸術・音楽・スポーツの分野で演奏会や合宿を通じて子どもや市民が高いレベルにふれあう機会を醸成していることも良い事と思います。

また、社会教育課が取り組む「フォトマッチインターカレッジ全国大会の開催」、図書館における貴重な「地方紙などのデジタルアーカイブ化」、博物館が取り組む「オホーツク遺跡街道づくり推進事業」など、地域の財産を守り、次世代の可能性を広げるための種まきが着実に進められている点は大変心強く感じています。

一方で、各事業の活動を足元で支えている市民ボランティアの高齢化や担い手不足、また各種講座における若年層・現役世代（U-35 等）の参加者減少など、今後の持続可能性に向けた共通の課題も明確になっています。

今後は、学校支援や図書館活動、スポーツ教室などにおけるボランティアの募集・マッ

チング方法にさらなる工夫を凝らすとともに、若い世代の関心に寄り添ったテーマの選定や SNS 等の効果的な活用など、時代に即したイノベーションを推進していく必要があると感じました。

社会教育事業の推進にあたっては、これまでの良質な対面活動や地域協働の強みをしっかりと堅持しながら、誰もが生き生きと学び、輝ける網走市の社会教育の実現に向けて、今後とも創意工夫のもと、歩みを進めていただくことを切に期待いたします。